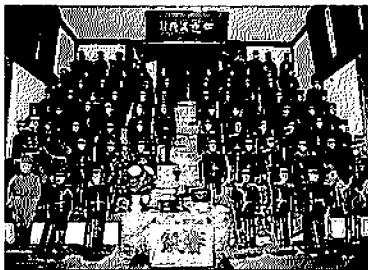


史料紹介…小倉山善光寺所蔵『日露戦役野戦第九師團戦歴』

樋口浩造・弓谷 葵

解説

ここに翻刻・紹介する史料は、岐阜県美濃市泉町にある小倉山善光寺所蔵の「日露戦役野戦第九師團戦歴」(実物の表紙は無題だが、本稿ではこのように呼んでおく。以下「戦歴」)である。美濃和紙が使用されたこの冊子は、「征露戦病死者 肖像人名記」(以下「人名記」)、「日露戦病死者 肖像記録」(以下「肖像記録」)とともに、善光寺内の「英靈堂」から近年発見されたものである。定本となった文書及び美濃「英靈人形」については、既に千田靖子「美濃の英靈人形」(『日本人形玩具学会誌』第一六号 二〇〇五年)によって詳細な研究がなされており、ここでは簡単な紹介をするにとどめたい。以下、千田氏の研究に拠りながら最小限の説明を付し、さらに、他地域にもみられる同様の木造人形による追悼について、簡単な紹介をしておきたい。日露戦争は近代国家として、国内的には全国各地で大きな犠牲を出した初の対外戦争であり、また同時に日本が帝国主義国家の一角をなすきっかけとなった戦争でもある。この戦争を契機に、戦死者の様々な追悼が手厚く、また盛んに行われた時期でもあった。こうした時期に、美濃善光寺では生前の写真をもとに、戦没者の人形を製作するという、現在から見れば極めて珍しい形式での追悼が行われた。



美濃小倉山善光寺英靈堂 I

美濃善光寺の「英靈堂」には、日露戦争で死没した「英霊」の木像九五体が安置されている。名古屋のからくり人形師、六代目玉屋庄兵衛の作とされ、身の丈約六五cm程度、軍服を纏い、眼球にはガラス玉がはめ込まれている。写真をもとに、かなり精巧に作られており、個々人の顔立ちの違いも判然としている。背には海が掘り込まれており、遺髪等が納められているとされる。日露戦(1904～1905)において、岐阜県では三六六八名の犠牲者を出したが、武儀郡出身の二八二名のうち、上有知町(こうづちまち)の有志が発起人となって名古屋に木像を發注した。当初一七〇体が製作され、小倉山善光寺境内の忠魂記念堂内に安置された。アジア・太平洋戦争後、処分を免れるため遺族に返却されたが、引き取り手のないもの、あるいは再び堂内での安置を希望して持ち寄られたものが遺され、現在に至る。

一体ごとに法名・所属部隊・位階を記載した札があり、木像背部にも故人の氏名が記されているが、像背部の文字は判読できないものが多数あり、今回照合した結果、氏名が確認できたものは八五体(うち「岩本定治郎」「波多野五一郎」は各二体存在するが理由は不明)であった。

底本となる記録文書は、それら「英霊人形」が隊列をなす中央、壇上の、本来は厨子にあたる場所の観音開きの内から、同寺守護の会長であり管理人の増田重市氏と千田氏が発見されたものである。三冊子は箱にまとめられており、「川尻淨雄誼書」との短冊が貼られている。増田氏のお話によれば、文書は敗戦後の処分を免れるため、当時地元自治会の会計であった川尻氏の手で厨子内に隠されたと考えられるという。また、これらの記載内容は「木内梧楼」が窓口的存在となり、日露戦役直後に、当時金沢にあった第九師団に問い合わせたものとされている。「戦歴」には一九〇七年、「肖像記録」には一九〇五年二月と、それぞれに成立年と考えられる記述があり、現存のものが三冊とも原本であろうと推定しているが、後に写し直されたものである可能性も排除できない。三冊とも筆者は不明である。

「戦歴」に記載されている人物は総計四三名。うち木像の現存が確認された者は二六名で



美濃小倉山善光寺英靈堂Ⅱ

ある。「肖像記録」は、木像製作に出資した遺族のリストと考えられ、例えば、木像一体につき納める金額が「金五円」であったことが分かる。この「肖像記録」に記載された戦没者は、総勢一四六名であり、「戦歴」記載人物は全員が含まれている。さらに「肖像人名記」でのみ名前の確認される戦没者が二名。人形のみ確認される者が四名。確認できた戦没者名は、総計一五二名である。この一五二名について、一九三四（昭和九）年に編集・発行された「靖国神社忠魂史」（靖国神社社務所編集・発行。全三巻、日露戦に関する記述は二・三巻）と照合した結果、記載のある人物は八四名であった。そのうち、「戦歴」と「忠魂史」両方に記載があり、同一人物とみなせる二六名について検討してみたところ、「忠魂史」に著された故人の従軍の軌跡は、「戦歴」本文の記録にも相応するものであった。他の戦没者についても、死亡の日付が数日ズレたものが六件、氏名の表記が異なるものが三件、死亡場所が異なるものが一件、確認されたが、その他、所属部隊・死亡場所等にほぼ異同はない。

なお末尾に、「肖像人名記」に記載された、「緒言」を参考のために収録した。また、人形の有無、「肖像記録」「肖像人名録」「靖国忠魂史」への記載の有無、出身地、所属部隊、遺族を掲載した名簿を添付したので参照されたい。

この美濃善光寺以外に、現在未見のものも含めて、全国に四箇所の人形の存在が確認できている。以下、それぞれを簡単に紹介しておきたい。

北海道江別市野幌駅すぐの天徳寺には木像三二体が安置されている。日露戦争に野幌屯田兵七〇名余りが出兵したが、その戦没者の霊を慰めるために一九〇七年頃、作られたとされる。名古屋の人形師六代目玉屋庄兵衛の作と言われてきたが、千田靖子氏の調査では「金百四十四円也 木像三二名分、金一六円也 京都よりの運賃」と記された史料が残されており、京都の仏師の作と考えられるという。「江別市史」にわずかな記述が在るほか、現在入手できるも

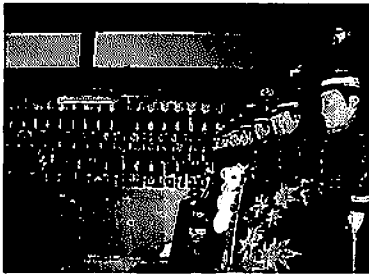


三冊子が納められていた木箱

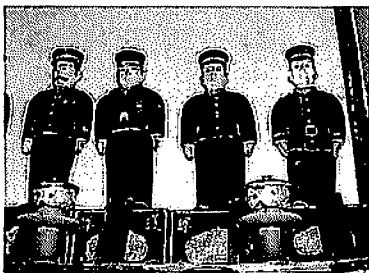
のでは、「史跡が語る江別の歩み」（江別市教育委員会 二〇〇一年）に写真とともに紹介がなされている。

同じく北海道の北見市信善光寺には、屯田兵人形と呼ばれる高さ六八cm程度の人形七五体がある。この人形をめぐっては、千田靖子「北見の屯田兵人形」（人形玩具研究 かたち・あそび）一七二（二〇〇七年）に詳述されているので、他の地域の人形との比較上必要と思われる点だけを指摘しておく。北見市の人形の特徴は、同じく日露戦争に出征した兵士の像ではあるが、この人形群がその威徳をたたえるために、帰還した元兵士たちに希望を募って製作されたという点である。製作は、一九三三（昭和八）年から一九三六（昭和一一）年の約三年間とされる。戦没者の追悼とは異なる目的をもつものである。また人形は名古屋に発注されているが、ちょうど玉屋庄兵衛六代目と七代目の代替わりの時期に当たっており、玉正商會を仲介に、人形師荒川宗太郎と木場賢治の製作と考えられる。この人形群は昭和四四年に北見市の指定文化財となっている。以上の二箇所は、未だ現地での調査ができておらず、手元にある史料等から得られた情報である。

次に静岡県志太郡岡部町の常昌院（通称兵隊寺）英霊殿には二二三体の人形が残されている。これも日露戦争での戦没者を祀ったものである。地域を挙げて人形製作事業に取り組んだことが、当時の活動を記した豊富な文書史料によって確認できる。また「英霊」の語は、日露戦争から使われ始めたと言われるが、美濃の史料からは「英霊」の語は確認できなかつた。しかし、岡部町では人形を納める建物を当初から英霊殿と呼んでいたようである。一九〇六年一〇月に人形は完成した。人形は「護国尊霊」と書かれた台座の上に立ち、出身地と名前を記した板が添えられている。美濃のものよりも、幾分小振りに見える。病死者は戦死者と区別するため顔



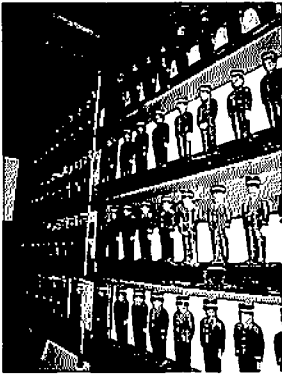
常昌院英霊殿Ⅰ



常昌院英霊殿Ⅱ

が白く塗られている。衣服によって、陸／海軍所属の別も確認できる。村瀬隆彦「志太郡関係日露戦争死没者について」(『藤枝市史研究』九号 二〇〇八年三月)で紹介、検討されている。村瀬論文では、常昌院所蔵の「忠魂録」は用いられているが、町民センター岡部に所蔵されている「英靈殿建設諸雑費控帳」などの当時の史料については触れられていない。十分な検討ができていないが、毛筆で記された当時の史料からは、「名古屋門前町末廣屋」に発注したこと、「木像師利三郎」や「白木屋*田藤七」などの人名が確認でき、名古屋との郵便での往来があったことが知られる。

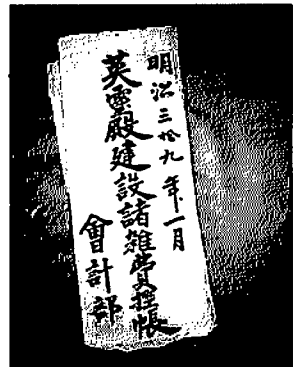
最後に、群馬県藤岡市龍源寺勢至堂には、一九〇五年から約二年間で製作されたと考えられる一六二体の軍人木像がある。当時の藤岡町長大戸作兵衛が中心となって製作されたとされる。岡部町と同様に台座の上に立つが、こちらは台座に順に戦病死の別、出身地、兵種階級、氏名が刻まれている。群馬県立歴史博物館で二〇〇四年「群馬の肖像Ⅰ―顔は歴史を語る」の展示が行われた際、第三部で「戦争と鎮魂―日露戦争開戦100年」と題して一六二体すべての集中展示が行われ、図録も発行された。また手島仁「日露戦争軍人木像」(『乾淑子編「戦争のある暮らし」』2008年 水声社所収)には、現時点で可能な様々な角度からの考察がなされている。入手可能な史料は少ないが、手島論文に拠れば、当時の「上毛新聞」には「仏師」に製作を依頼したとあり、人形と名古屋とのつながりは確認できない。岡部町と同じく、美濃よりはやや小振り、台座と合わせて



龍源寺勢至堂Ⅰ



龍源寺勢至堂Ⅱ



岡部町所蔵史料の一部

六〇cm程度の高さである。直立した人形が大半ではあるが、腕を組んだものやポケットに手を入れたものなど、個性的な人形も含まれている。

以上が現時点での概略である。各地域で、人形の保存に尽力したり、調査・研究をされている方々がおられ、研究上の成果も近年公表されてきている。地域ごとの詳細はそれらを参照されたい。

解説と言えほどの内容を持たないが、紹介したい史料の活字化だけは何とか終了したと考えている。人形という形式での追悼や顕彰の特徴とは何なのであるか。また、それがなぜ日露戦争をきっかけとして行われたのか。人形による追悼や顕彰は全国に五箇所ですべてなのか。名古屋の人形師と岡部町で作られた木像の関係は等々、すべて今後の検討課題として列挙するにとどめ、美濃英霊人形と発見された三冊のための説明文とする。

謝辞

作成にあたり、史料の閲覧、写真撮影を許可して頂く等、たくさんの方々のお世話になった。美濃の善光寺の管理人増田重市氏には急な訪問を含めたたびお世話になった。善光寺でたまたまお会いした千田靖子氏には、その後論文中で、メールで、電話でと多くの情報をいただいた。「英霊人形」を知ったのは愛知県立大学の倉橋正直先生のご指示による。また、美濃や岡部町の調査では、同じく愛知県立大学の王暁葵さんの参加協力を得た。岡部町の人形存在を教えて下さり、調査にも参加して下さったのは東京大学学振研究員の池映任さんである。群馬県立博物館の手島仁氏、龍源寺住職の勝正道氏、岡部町教育委員会の池谷圭次氏の各氏には、それぞれ現地で懇切丁寧な対応と情報の提供をいただいた。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。



龍源寺勇至堂Ⅲ

樋口浩造

弓谷 葵

凡例

- 1、底本は、美濃善光寺英靈堂内より発見された三冊の記録簿のうち「日露戦役野戦第九師團戦歴」である。成立は一九〇七年とみられる。原本を写真撮影し、写真版を元に活字に起こした。
- 2、句読点は校訂者による。また、濁点・ルビも適宜補った。
- 3、上端の数字は、原本の写真をもとに活字に起こしたときの、写真ごとに振り付けた通し番号である。例えば2と打つてあれば1丁裏と2丁表の見開き写真であり、その箇所の文章が掲載されている。

「日露戦役野戦第九師團戦歴」本文

1 萬世

2 遺訓

明治四十年十一月

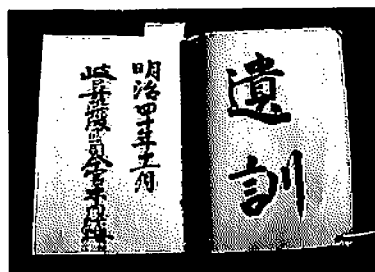
岐阜聯隊區司令官木内梧楼

3 明治三十七八年日露戦役

野戦第九師團戦歴

北陸ノ健兒驍勇^{シヤウユウ}能ク戦ヒ之ヲ統フルニ智謀膽略ノ將帥アリ。此ヲ以テ第九師團ノ向フ所、常ニ敵ナク、偉勳赫々トシテ、常勝軍ノ威名ヲ縦ニシタリ。其戦況ハ、當時既ニ報導シテ遺スナシト雖モ、今ヤ其振旅ノ凱旋スルニ當リ、重ネテ其戦歴ヲ後世ニ傳エ、以テ當師團ノ光榮ヲ新ニセントス。

- 1 驍勇…強くて勇ましいこと
- 2 振旅…凱旋すること



旅順要塞戰

第九師團ハ、陸軍中將男爵大嶋久直統率ノ下ニ、遼東半嶋ニ上陸ヲ開始シタルハ、三十七年七月十八日ナリ。而シテ未ダ全部ノ上陸ヲ了ヘザルニモ拘ラズ、第三軍ノ旅順攻圍戰、機熟セルヲ以テ、直ニ中央縱隊トシテ前進スルノ命ニ接シ、同二十六日、

4 凹字形山一帯ノ險要ニ據レル敵ニ向ヒ、新銳ノ猛氣一喝シテ堅壘ヲ拔キシガ、之ヲ戰勝ノ手初トシテ、疾風ノ枝葉ヲ捲ク勢ヲ以テ敵ヲ追撃シ、同三十日干大山鳳凰山一帯ヲ占領シテ、敵ヲ旅順本防禦線内ニ屏息セシメタリ。而シテ彼ノ凄慘ヲ極メシ第一回旅順要塞總攻撃ニ際シ、八月十九日平佐少將ノ第十八旅團ハ龍眼北方角面堡、即チ、クロバトキン砲臺ニ肉薄シ、急撃突入セシモ、名ニシ負フ堅壘防備ノ嚴重ナルコト想像ニ絶シ、終ニ一夜ニシテ千二百六十四名ノ死傷者ヲ出シテ、尚成果ヲ見ルニ至ラザリシ。二十一日午前四時ヲ期シテ行ハレタル總突撃ニライテ、歩兵第六旅團ハ、一戸少將指揮ノ下ニ盤龍山東砲臺ニ突撃ヲ強行スルコト六回。其第七聯隊ノ如キ、大内聯隊長、身ニ二十八彈ヲ受ケテ砲臺下ニ倒レ、三大隊長相踵テ戰死シ、全聯隊殆ンド死傷シ盡スニ至ルモ屈セズ、夜ニ入ツテ、歩兵第三十五聯隊（折下大佐）、及ヒ第十九聯隊ノ山本大隊ヲ以テ突撃ヲ試ミシガ、折下聯隊長以下、各大隊長悉ク死傷シ、一戸旅團ニ屬スル佐官。一人モ存セズ。其他ノ死傷亦多大ニシテ、起ツ能ハサルニ至リシガ、第一回突撃隊ノ殘員粥川、小寺両大尉以下歩兵五十名及ビ工兵二十名ト共ニ、砲臺直下ノ地隙内ニ在リシ杉山工兵大尉ハ、最後ノ非常手段トシテ、爆藥ヲ以テ敵壘ヲ破碎スルノ策ヲ案出シ、姫野軍曹以下五名ノ工兵、之ヲ敢行セシガ、奇策幸ニ功ヲ奏シ、敵兵驚愕ノ機ニ乘ジ、歩工ノ殘兵七十名一躍シテ破壞孔ヨリ突入シ、名譽アル第七聯隊ノ軍旗ハ眞先ニ旅順本

5 防禦線ノ胸墻ニ樹テラレ、一戸少將直ニ砲臺内ニ入り、奮戰四時間ニシテ、全ク之ヲ占領ス。次テ須永參謀長ノ炯眼ナル、盤龍山砲臺ノ備薄キヲ看破シ、薄暮第十九聯隊濱口大尉ノ一隊ヲシテ、急ニ突撃シテ之ヲ奪取シ、茲ニ全然失敗ニ了ラントセル攻圍軍ノ第一回總攻撃ハ、第九師團ノ偉功ニヨリ、其面目ヲ維持スルヲ得タリ。此二砲臺ノ

占領ハ、大ニ全軍ノ勇氣ヲ提起シ、第九師團ハ第十一師團及ビ後備第四旅團ト共ニ、再度ノ強襲ヲ望臺一帯ノ高地ニ試ミ、一度ハ望臺上ニ達セシモ、忽チ全滅シ、攻圍軍ハ愈強襲ヲ斷念シタリ。十九日ヨリ此日ニ至ルマデ、全師團ノ死傷五千百六十名ノ多数ニ達シ、師團全滅ノ報ハ、屋内地ニ傳ハルニ至レリ。九月十八日クロバトキン砲臺ノ攻路成ルヤ、平佐旅團長ハ翌十九日、第十九第三十六ノ兩聯隊ヲ以テ、再度ノ攻撃ヲ成シ、凄慘ナル戦闘ヲ經テ之ヲ奪取シ、觀戰外客ヲシテ、是レ人力ニ非ズト驚嘆セシメタリ。十月二十六日ヨリ三十日ニ亘ル第二回總攻撃ニハ、各友軍ハ再ビ得ル所ナカリシニ反シ、我第九師團ハP砲臺奪取ノ殊功ヲ奏シ、聖旨ヲ以テ指揮官一戸少將ノ名ヲ冠シ一戸砲臺ト命名セラル、光榮ヲ博シ、平佐少將亦二龍山砲臺ノ外岸ヲ破壊シタリ。而シテ軍ノ十一月二十六日ヲ期シ、全軍決死ノ覺悟ヲ以テ、第三回總攻撃ヲ斷行スルヤ、二龍山ノ一砲臺ニ集注セラレタル廿八瓏巨彈ノミニテモ實二千五百發ニ達シ、列車四十輛ノ積載量ニ及ビタリ。其壯烈ノ光景想見スベシ。此時平佐旅團長ハ、第十九聯隊ト第七聯隊ノ緒方トヲ連繫シテ、咽喉部ニ迫リシガ、旅團ノ關門トモ称スベキ大砲

6 臺ノ事トテ、敵ノ抵抗頑強ヲ極メ、我苦戰名状スベカラズ。一戸旅團亦支那圍廓ニ突撃セシモ、共ニ効果ヲ見ズ。同師團ノ損害ハ、第一回總攻撃ノトキニ多ク讓ラズ、攻圍軍ノ全線總テ非ナルノ形勢アリ。人ヲシテ旅團ノ前途ニ關シ、寒心ニ堪ヘザラシメシガ、不屈不撓、二龍山攻陷ノ作業ヲ進メ、終ニ、十二月二十八日、砲臺胸墻下ニ火藥ヲ填裝スルコト七百七十五貫。電導線ヲ以テ之ヲ爆發セシムルヤ、サシモニ堅牢無比ノ二龍山砲臺モ、轟然タル大爆發ト共ニ、正面胸墻ノ粉碎セラルルモノ八十五米突。其機ヲ移サズ第十九聯隊ハ之ニ突撃シ、一萬個ノ土囊ト

3 堅壁…守りの堅いとりで

4 抜く…攻め落とす

5 屏息…息を殺して恐れつつしむ

6 佐官…陸海軍の大佐、中佐、少佐の総称

7 胸墻…味方の射撃を便にし敵の射撃を防ぐ目的で築いた、人の胸の高さほどの堆土

8 不屈不撓…不撓不屈。心がたたく、困難に屈しないこと

鐵製銃眼⁹トハ間モナク運搬サレ、急造掩堡¹⁰ヲ築テ死物狂ヒノ敵ト最後ノ決戦ヲ続ケ、我ニ苦戦ノ色アリシモ平佐少將ノ叱咤令ニ勦マサレテ、遂ニ重砲線ヲ奪ヒ、第十九聯隊ノ聯隊旗ハ砲臺上ニ飄ヘリ、翌曉三時全ク之ヲ占領セリ。此役大嶋師團長大ニ決スル所アリ。若シ二龍山ニシテ陥ラズンバ、之ヲ枕トセンノミトテ、窃ニ決死ノ裝ヲナセリト。越エテ三十一日松樹山陥リ、明レバ三十八年元旦。一戸少將ハ二百三高地ト並ビ称セラル、望臺一帯ノ天險¹¹ヲ陥ル、ヤ、敵將急ニ降ヲ我軍門ニ請ヒ、攻圍半歲壯烈慘慘ヲ極メタル要塞戦ハ、斯ノ如クニシテ局ヲ結ベリ。盤龍山東西砲臺占領ニ初マリ、本防禦線ノ關門タル二龍山望臺ヲ陥レシニ終ル第九師團ノ功ハ、實ニ旅順ノ要塞ニ第一撃ヲ下シ兼テ其止ヲ刺シタルモノト云フベシ。

奉天附近ノ大會戰

7 旅順激戦ノ創痕未ダ癒エズ、補充未ダ成ラザルニ、第九師團ハ北進ヲ命ゼラレ、一月二十七日ヲ以テ運動ヲ起シテ、遼陽ノ西北方大沙嶺附近ニ集合シ銳ヲ養ヒタルガ、我滿州軍ノ前線延長五十里ニ亘リ、旗鼓¹²堂々敵ト相對時シテ勦カザルモノ月餘¹³、戰機熟シテ進撃ニ決スルヤ、第三軍ハ敵ノ右翼ヲ迂回シテ其側背ヲ衝キ、機動ノ發展ヲ促ガスノ計畫ヲ立テタリ。茲ニ於テ第九師團ハ第三軍ノ第一縱列トシテ最右翼ニ備ヘ、二月廿七日ヲ以テ運動ヲ起シ、沿道ノ敵兵ヲ掃蕩シテ、三月一日四方臺ニ逼リス。四方臺ハ敵ノ右側、本防禦線第一ノ要鎮ナリ。第九師團ハ其西南方約五千米突、三道溝ニ進出シテ、友軍ノ進捗ヲ待チ、四方臺前面一望漠々タル平野ニ展開シ、急劇ナル敵砲ノ散布射撃ヲ顧ミズ、整然トシテ敵前ニ逼リ、敵ノ騎幕ヲ壓迫シテ機ノ熟スルヲ待ツ。此時砲兵第九聯隊ハ、敵火ヲ伺シテ開濶地¹⁴ヲ前進シ、熾ニ砲撃ヲ開始セシガ、宇治田聯隊長此時戦死シタリ。我軍白晝強襲ノ不利ヲ見テ夜ヲ待ち敵陣ニ突入シ、奮戦之ヲ驅逐シ、遂ニ四方臺ヲ占領ス。旅順要塞戦ヨリ此曠野戦ニ移ル、頗ルアツケナキ感アリシモ、開濶シタル平地ヲ前進スルコトトテ損害少ナカラザリシ。翌二日飛雪ヲ冒シテ前進シ、午後三時敵ノ歩騎兵ヲ驅逐シテ北三臺子ヲ占領シ、更ニ一隊ヲ出シテ瓢屯子彰驛店ヲ占領セシメタリ。然ルニ優勢ナル敵ノ逆襲ニ遇ヒ、瓢屯子ニテハ之ヲ撃退スルヲ得シモ、彰驛店ニテハ守備兵全滅シ、應援隊ノ苦戦モ

8 遂ニ及バズ、一度敵ニ奪取サレシモ、翌曉、力戰シテ終ニ之ヲ奪還シ、敵ニ大損害ヲ與ヘタリ。四日第九師團ハ張士屯ニ至リ、奉天停車場ヲ攻撃目標トシ、直ニ敵ノ右側ニ逼ラントセシガ、敵ハ意外ニ堅牢ナル防禦陣地ニ據リ、一軍團ノ兵ト四十門以上ノ砲ヲ以テ之ヲ守レリ。我兵最モ勇敢ニ此大敵ニ猛撃ヲ與ヘシモ、我砲ハ屢敵砲ニ壓セラレ、死傷續出シ、對杭兩日砲戰愈劇シクシ、損害益大ナリ。五日夜、軍ハ旋回運動ノ機會發展ニ乘ジ、第九師團ヲシテ大石橋方面ニ進出セシム。此時ニ當リ敵ノ一部隊ハ轉灣橋方面ヨリ友軍ノ守備セル部落ヲ襲撃シ、勝ニ乘ジテ將ニ大石橋ニ襲来セントセリ。進行ノ途中急ヲ聽キタル一戸第六旅團長ハ急行シテ大石橋ニ殺倒シ、潮ノ如ク前進シ来ル敵ヲ喰止メ、次テ来ル平佐旅團ト共ニ奮戰シテ敵勢ヲ挫キ、戰勢ハ漸ク此ニ一轉化ヲ示シヌ。七日、師團ハ秋家屯ニ進ミ、造化屯ヨリ高力屯ニ向ハシメ、砲兵第二旅團及ビ同九聯隊十六聯隊ヲシテ、急ニ砲戰ヲ開始セシメシニ、敵砲優勢ニシテ我砲火ノ威力容易ニ現ハレズ。茲ニオイト大嶋師團長ハ大英斷ヲ以テ砲兵聯隊ノ位置轉換ヲ命ジ、開濶シタル畑地ヲ横斷シテ最果敢ナル動作ヲナサシメタルガ、之ガ爲メ友軍ノ志氣ヲ鼓舞シ、砲撃ノ効果之ヨリ漸ク現ハレ、歩兵亦漸ク肉薄シ、遂ニ敵ヲシテ全ク潰亂ニ陥ラシメタリ。而シテ造化屯ノ敵ガ我壓迫ニ堪ヘズ攻勢ニ轉ズルヤ、平佐旅團猛撃シテ之ヲ退ケ、敵ノ奉天方面ニ退却スルヤ、一戸旅團ハ進ンデ其退路ヲ斷チ、猛烈ナル白兵

9 戰ヲ交ヘ、有名ナル敵ノ參謀大佐サポリースキノ一隊ヲ擊殺^{キョウゴ}セリ。是レ第九師團ノ奉天附近會戰中、激戰ノ最ナルモノナリキ。然レ共此日第三軍ノ進捗頗ル遅々タルモノアリトシテ、第三軍司令官ハ滿州軍總司令官ヨリ、左ノ

9 銃眼ニ敵を射撃するために、塙壁・堡塁などの掩護物にあげた穴
掩堡…掩(おおう)堡(とりで)

11 天險…自然の要害、非常に険しい所

12 旗鼓…戰場で指揮のために用いる旗と太鼓

13 月餘…一ヶ月余り

14 開濶…ひろびろとしている

15 擊殺…みなごろしにする

命令ヲ受領シタリ。一、諸般ノ報告ヲ綜合シ、第三軍ノ戦況ヲ判断スルニ、本七日ニ於ケル運動ハ頗ル遅々ナルヲ覺ユ。甚ダ遺憾トス。二、今般ノ戦機ヲ發展スルノ目的ヲ以テ奉天附近ノ敵ヲ撃退スルハ、第三軍ノ攻撃迅速且果敢ナルニ依ラズンバアラス。三、貴官ハ充分ノ決斷ヲ以テ、貴官ノ命令ヲ嚴格ニ實行セシメ、以テ攻撃ヲナスベシ。乃木第三軍司令官ハ、右ノ命令ヲ部下各師團ニ傳ヘテ、其奮起ヲ促シタリ。翌八日ノ八家子攻撃、豈更ニ猛烈ナラザルヲ得ンヤ。第九師團ハ八日、敵前ノ開闢地ニ進出シ、猛烈ナル砲火ヲ八家子ニ集中シ、其成果ノ著シキモノアルヤ、一戸旅團ハ午後一時果敢ナル大突撃ヲ開始シ、森林内并ニ土壁内ニ突入ス。敵兵死守頑強、銃火縦横劍戟相摩シ相突キ相斬リ、一擧シテ之ヲ奪取シタルガ、敵ハ又直ニ大部隊ヲ以テ逆襲シ来リ。劇戦敵時ニ亘ル。而モ敵ヲシテ一步モ進マシメズ撃退シタル巧妙ナル動作ハ、模範戰ノ稱ヲ恣ニシタリ。此日敵ノ遺棄シタル死屍千三百、八家子村裡到ル所累々トシテ流血杵ヲ漂ハセリ¹⁶。此時ニ當リテ、第三軍旋廻運動ノ効果漸ク現ワレ、奉天ノ敵動搖ヲ始メタリ。翌九日、第九師團ハ胡士屯停車場ニ進出セントスル折

10柄、友軍ノ敵ニ逆襲包圍セラル、ニ逢ヒ、直ニ敵ノ側背ニ出テ、友軍ヲ救援セントシ、砲兵援護ノ下、塵風ヲ冒シテ廓三屯ヲ攻撃シ之ヲ奪取セリ。然ルニ夜ニ入り、敵ノ決死隊賊聲^{かんせう}ヲ揚ゲテ突入シ来リ。混戦亂闘終夜止マズ。而モ力戰遂ニ之ヲ退クルヤ、敵勢頓^{とん}ニ衰ヘ、友軍初メテ危急ヲ脱シタリ。翌十日、第九師團ハ進ンテ東場丘ヲ拔キ、小橋子ノ敵ト對セシガ、此日敵遂ニ叶ハザルヲ知り、隊伍ヲ亂シテ北方ニ潰走シ、我砲火ハ絶エズ多大ノ損害ヲ與ヘタリ。然レドモ敵ハ第三軍ノ側面攻撃ニ備フルコト非常ニシテ、大部隊ノ兵力ハ我前面ヲ杜塞^{とせき}シ、大逆襲ニ轉セントスル形勢ナルヲ以テ遂ニ動かズ。同夜ヨリ翌曉ニカケ、敵軍總退却ヲ始ムルヤ、十一日、第九師團ハ第三軍ノ先頭ニテ追撃シ、九里溝子ニ殘敵ノ最後ノ列車ニ乗ジ發車セントスルヲ襲ヒ大打撃ヲ加ヘ、十二日、平佐旅團ハ急行シテ鐵嶺ヲ屠^{ころ}ラン¹⁹トセシガ、既ニ友軍ノ之ヲ陷レシヲ聞キテ引還シ、奉天ノ戦ハ茲ニ終リヲ告ゲ、第九師團ハ第三軍中特ニ勳功顯著ナルモノトシテ、獨リ滿州軍總司令部ヨリ左ノ感狀ヲ受領シタリ。

奉天附近ノ合戦ニ方リ、四方臺ノ攻撃以來、第二軍ノ左翼ニ連絡シテ猛烈ニ敵ヲ追撃シ、之ヲ奉天附近ニ壓迫シ、繼^{ついで}テ第三軍ノ奉天

西方ニ繞回^{ヒヤウカク}スルヤ、實ニ其骨幹トナリ、造化屯ニ八家子ニ頑強ノ敵ヲ擊退シ、最後ニ軍ノ左翼ニ出テ、僅少トナリシ兵力ヲ以テ郭七屯附近ニ優勢ノ敵ヲ防止シタリ。其功績偉大ナリト認ム。仍テ感状ヲ附與ス。

奉天會戰後、殊勳赫々タル一戸第六旅團長ハ、

11 第三軍參謀長ニ轉ジ、小泉少將其後ヲ襲フ²¹。第九師團ノ損傷ハ、旅順ニ於テ、將校戰死百七十七、負傷三百五十九、下士卒戰死四千三百七十七、負傷一萬一千五十一、計一萬五千九百六十四。奉天會戰ニ於テ、將校戰死三十八、負傷百七十七、下士卒戰死九百三十七、負傷五千四百四十一、生死不明百八十三、計六千四百七十六。即チ、死傷合計二萬二千八十一。内、戰死者五千五百二十九、傷病死者九千九百五十五。損傷ノ多キ、各師團ニ冠タルモ、功績ノ大ナル亦其群ヲ抜ケルモノト云フベキナリ（終）

和歌山縣和歌山市出身 遺族

一 宇治田虎之助命 第九師團野戰砲兵第九聯隊長 故 陸軍砲兵大佐勳^等 功四級 宇治田虎之助

君ハ、明治十七年四月、陸軍士官學校ヲ卒業シ、第三師團野戰第三大隊附ヲ命ゼラル。十八年六月、陸軍砲兵少尉ニ進ミ、第三大隊副官心得トナリ、武拾壹年十一月二十日、任陸軍砲兵中尉、同武拾五年六月、任陸軍砲兵大尉第一中隊長タリ。明治二十七八年戰役ニテハ、第三師團副官トシテ出征シ、多大ノ功績ヲ顯ラハシ、二十九年二月少

16 流血杵を添わす…流れる血が杵のような重いものを流す。戦争が烈しいさま

17 賊聲…ときのこえ・呐喊

18 杜塞…ふさぐ

19 屠る…敵をやぶる

20 繞回…めぐる

21 襲フ…継ぐ

22 本文空白

佐二進ミ、第四師團附、

12 榮轉シ大隊長タリ。爾後野戰砲兵監部員ヲ命セラレ、三十四年十一月中佐ニ累進シ、陸軍省軍務課長タリ。而シテ今回ノ戰役起ルヤ、第九師團野戰砲兵第九聯隊長トシテ渡清シ、旅順要塞攻圍中ニ於ケル常ニ多大ノ功績ヲ現シ、三十八年一月旅順開城。北進シ四方臺攻撃ノ際名譽ノ戰死ヲ遂ゲラル。氏ガ陸軍出身以來數多ノ戰鬪場裡ニ於ケルノミナラス、常ニ八部下ニ對スル懇篤²³沈勇²⁴ニシテ、少ナカラザル偉業ヲ殘ス。嗚呼氏ハ嘔セリ。然リト雖モ、吾聯隊ニ於ケル四方臺攻撃以後ノ士氣ハ、爲ニ益々鼓舞シテ、以テ旬日ナラスシテ最終ノ美ヲ見ルニ至リシハ、是氏ノ與テ大ニカアル所以ナリ。三十八年十二月十八日、君生前ノ功ニ據リ、任陸軍砲兵大佐、叙功四級。死躰ハ火葬トシ奉天府第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。

13

岐阜縣武儀郡上有知町

遠藤與七郎 次男

法名 如心軒茂林宗一居士

第九師團歩兵第十九聯隊第四中隊附

故 陸軍歩兵軍曹勳七等功七級 遠藤茂一郎

君ハ、明治三十七年五月一日、教育召集トシテ歩兵第十九聯隊第四中隊附ヲ被命、同月九日動員下令、六月五日任歩兵軍曹、六月二十七日野戰隊トシテ屯營出發、



同月二十八日廣嶋着、七月十五日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月十九日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同月二十日金州ニ集合、同月二十三日ヨリ盤道北方高地ニ於テ三晝夜ニ亘ル前哨勤務ニ服シ、同月二十六日聯隊ハ凹字形山攻撃ヲ開始スルヤ、敵ハ天險ヲ利用シ人工ヲ施シ堅固ニ拒守シタリ。同日午後四時大隊長綿木少佐ハ第一堡壘ニ向テ咽賊²⁵ノ命ヲ下スヤ、敵ハ

14 俄然機關砲火ヲ以テ防戦シ、激闘奮進中敵彈ニ中リ、名譽ノ戰死ヲ遂ゲラレタリ。死躰ハ岔溝ニ埋葬シタリ。其後第九師團豫備馬廠附西部賢造氏ハ、君ト同郷ニシテ無一ノ親友タリシガ、不思議ニモ行軍途中ニ於テ迂路ニ踏迷ヒ、

山又谷ヲ出テ遂ニ君カ墓前ニ出會シ、氏ハ未タ嘗テ斯カル所ニ親友ノ墓標ノ在ル事ハ生存中ノ再會ナリト、氏モ落涙數條、轉タ^{また}舊情ヲ想ヒ、墓標ニ向ツテ日ク、「君ハ余ガ無ニノ親友タルニ、何ゾ圖ラン、今日ハ黄泉ノ客ト成リ而モ屍ヲ萬里ノ異域ニ殘シ、嗚呼人間至ル處青山^{せいざん}アリ」ト嘆息シ、「余モ君ト同シク征露ノ爲徒軍シタルナリ」ト。「何ゾ仇敵ヲ懲シ生靈ニ奉ル」ト和歌三種ヲ詠シ草花ヲ手向ケ發足シタルト、信ニ親友ト言フベシ。三十九年一月君ガ骸骨ヲ火葬トシ揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。

岐阜縣武儀郡上有知町 西田森之市 養長男

法名 義勇時習居士 第九師團歩兵第十九聯隊第五中隊

故 陸軍歩兵上等兵勳八等功七級 西田時習

君ハ、明治三十七年五月十五日充員召集ニ應ジ、歩兵第十九聯隊第五中隊ニ編入、六月二十七日屯營出發、同月二十八日廣嶋着、七月二十一日征露ノ爲ノ宇品港出



帆、同月二十六日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同日ヨリ行軍シ同月三十日干大山攻撃ニ従事シ、八月十二日ヨリ東北溝北方高地ニ於テ前哨勤務ニ服シ、八月十八日ヨリ旅順要塞本防禦線攻圍ニ従事シ、同月十九日第三軍ハ旅順要塞第一回総攻撃ヲ開始スルヤ、連日連夜攻撃ヲ続行スト雖モ容易ニ占領シ得ザル、頗ル難局ニ陥入タリ。

15 同月二十三日第五第六中隊ハ盤龍山西舊砲臺攻撃ノ命ヲ受ケテ、即日午後一時東北溝ヲ出發シ、陸軍歩兵大尉濱口忠之氏ノ指揮下ニ在リテ該山ニ向フヤ、敵ノ難攻不落ト自称シタル砲臺ニ、加之各方面ヨリ砲彈集注シ機關砲ヲ備

24 23 懇篤ニ親切で手厚い

沈勇ニ落ち着いて勇氣がある

25 24 咽喊ニ吶喊、ときのことか

26 27 轉タ…いよいよ、ますます

青山…墓地の意

ヘテ防戦シタリ。此際君ハ午後四時咽喊ノ命下ルヤ、勇猛奮進遂ニ占領ノ實ヲ揚ゲ、占領工事施設中敵彈ノ爲メ名譽ノ戦死ヲ遂ゲラレタリ。骸骨²⁸ハ埋葬シ三十八年一月再ヒ火葬トシ、残灰ト共ニ揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。

岐阜縣武儀郡上有知町 河合岩吉 長男

法名 大應祐泉居士 第九師團歩兵第十九聯隊第三中隊

故 陸軍歩兵一等卒 河合米三郎

君ハ、明治三十六年十二月一日徵兵トシテ歩兵第十九聯隊第三中隊ニ入隊、三十七年五月九日勳員下令、六月二十七日野戦隊トシテ屯營出發、同月二十八日廣嶋



着、七月十五日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月十九日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同月二十日金州ニ集合、同月二十三日ヨリ盤道北方高地ニ於テ三晝夜ニ亘ル前哨勤務ニ服シ、同月二十六日ヨリ凹字形山攻撃ニ従事スルヤ、敵ハ天險ニ人工ヲ施シ機關砲ヲ備ヘ堅固ニ拒守シタリ。午後四時大隊ハ第一堡

16壘ニ突貫ヲ始ムルヤ、奮進壘下ニ肉迫シ夜ヲ徹シタリ。翌二十七日第二堡壘ヲ占領シ、同月三十日干大山攻撃ニ參加シ、八月十四日ヨリ東北濱北方高地ニ旅順要塞本防禦線攻圍ニ従事シ、同月十九日ヨリ第一回旅順要塞總攻撃ト成リ東北濱ニ前進ス。同月二十八日ヨリ九月九日ニ亘ル盤龍山東窩砲臺守備ニ服スヤ、該山ハ一面岩石ヲ以テ、占領工事困難タリ。殊ニ敵ノ包圍ヲ受ケ、加ルニ突撃ノ際ニ於ケル伏屍²⁹累々腐臭ヲ放チ守備中難關タリ。九月二日ヨリ第一線守備ヲ交代シ前線ニ就クヤ、敵ハ樞要ナル該山ノ我有ニ帰シタルヲ憂ヒ、屢々讐仇ノ念ヲ以テ逆襲シ來リ。日夜砲彈頻發シ、九月三日第一線守備中敵彈ノ爲掩蓋³⁰破壊セラレ埋没シ、遂ニ名譽ノ戦死セラレタリ。三十八年一月再ヒ火葬トシ、揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ

岐阜縣武儀郡上有知町字下渡り 笠井政右衛門 兄

法名 仁峰宗義居士 第九師團歩兵第十九聯隊第三中隊 故 陸軍歩兵一等卒 笠井儀三郎

君八、明治三十四年十二月一日徵兵トシテ歩兵第十九聯隊第三中隊ニ入隊、三十五年十二月一日歩兵一等卒申付ラ
ル。三十七年五月九日動員下令、六月二十七日野戰隊トシテ屯營出發、同月二十八日廣嶋着、同月二十九日ヨリ滯
在、七月十五日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月十九日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同月二十日金州ニ集合、同月二十三
日ヨリ盤道北方高地ニ於テ三晝夜ニ亘ル前哨勤務ニ服シ、同月二十六日ヨリ二十八日ニ至ル凹字形山攻撃ニ従事
中、同二十六日第一砲壘ニ突撃スルヤ、

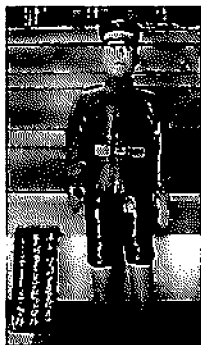
17 君八、勇猛奮進克ク任務ヲ盡セリ。同月三十日干大山攻撃ニ参加シ、其後八月中ハ雨期トナリ連日淋雨³¹道路泥濘
飲水不良、干大山下畑地ニ暮營シ、僅ニ雨露ヲ凌キ居タルモ氣候不順ノ爲メ遂ニ病ニ罹リ、入院スルノ不得止ニ至
レリ。八月十六日周家屯野戰病院ニ入院、九月一日内地後送ノ爲メ青泥窪出帆、九月六日大坂築港上陸、同日大坂
豫備病院ニ収容、九月二十九日遂ニ病死セリ。死骸ハ大坂豫備病院陸軍墓地ニ埋葬ス。

岐阜縣武儀郡上有知町字上條 山口慶治郎 弟

法名 心光軒貫道義俊居士 第九師團歩兵第十九聯隊第八中隊附

故 陸軍歩兵伍長勳八等功七級 山口磯治郎

君八、明治三十五年十二月一日徵兵トシテ歩兵第十九聯隊第八中隊ニ入隊、三十



28 散骨…身体、からだ
29 伏屍…死骸
30 掩蓋…敵彈を防ぐため、壘壕等の上に水平に作る屋根
31 淋雨…ながあめ

六年十二月一日歩兵一等卒、同日上等兵申付ラル。三十七年五月九日動員下令、六月二十七日野戰隊トシテ屯營出發、同月二十八日廣嶋着、七月十五日征露ノ爲メ字品港出帆、同月十九日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同月二十日金州ニ集合、同月二十三日ヨリ岔溝ニ於テ三晝夜ニ亘ル前哨勤務ニ服シ、同月二十六、七、八日凹字形山攻撃ノ際ハ第一線突撃部隊ニ属シ、同月三十日干大山攻撃ニ参加シ、八月十日ヨリ鳳凰山ニ於テ前

哨勤務ニ服シ、八月十五日旅順總攻撃準備トシテ東北溝ニ前進ス。同月十九日ヨリ旅順要塞本防禦線攻圍ニ従事シ、同月二十五日ヨリ西盤龍山舊砲臺守備ニ就クヤ、該山ハ一面岩石ヲ以テ殊更劍山²白刃ノ如ク、望臺ニ龍山イ子高地ヲ以テ立屏シ、頗ル難局タル守備ヲ全シ、九月十六日任歩兵伍長、同月十九日二十日龍眼北方角面堡攻撃ノ際ハ第一突撃部隊ニ續行シ、該砲臺ニ突撃スルヤ、敵ハ堅固ニ拒守シ殊ニ機關砲ヲ亂射シ防戦シタリ。同日午後四時突撃部隊ハ猛烈ニ奮進シ、格闘ノ際敵彈ニ中リ名譽ノ戦死ヲ遂ゲラレタリ。死骸ハ埋葬シ、三十八年一月再ビ火葬トシ、揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ

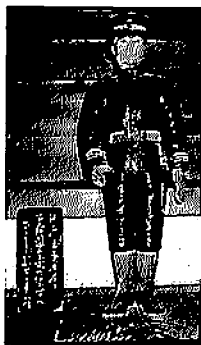
岐阜縣武儀郡上有知町字口野々 早戸志も 戸主

法名 嘉運大慶居士 第九師團歩兵第十九聯隊第一中隊

故 陸軍歩兵上等兵 早戸嘉右衛門

君ハ、明治三十七年五月十五日充員召集ニ應ジ、歩兵第十九聯隊第一中隊ニ編入、六月二十七日屯營出發、同月二十八日廣嶋着、七月十五日征露ノ爲メ字品港出帆、同月十九日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同月二十日金州ニ集合、同月二十三日ヨリ

盤道北方高地ニ於テ三晝夜ニ亘ル前哨勤務ニ服シ、同月二十六日ヨリ凹字形山攻撃ニ従事スルヤ、敵ハ天險ニ人工ヲ施シ、機關砲ヲ備エ、激戦教時遂ニ第一堡壘ヲ占領セリ。翌二十七日第二堡壘ヲ占領シ、第三堡壘進撃トナルモ該山ハ岩石重疊堅固ナルヲ



19 以テ、敵ノ背部ニ迂回シ峻峻ナル坂路ヲ登リ、午後五時遂ニ占領セリ。同月三十日干大山攻撃ニ参加シ、八月十四日ヨリ東北澁北方高地ニ於テ前哨勤務ニ服シ、同月十八日ヨリ旅順本防禦線攻圍ニ従事シ、同月十九日ヨリ師團豫備隊トシテ東北澁ニ移轉シ、同月二十八日ヨリ九月九日ニ亘ル盤龍山東礮臺守備ニ服スヤ、該山ハ一面岩石露出シ敵ノ包圍ヲ受ケ、加之ルニ突撃ノ際ニ於ケル伏屍累々臭氣ヲ放チ、流血淋漓³³、一夜ノ工事モ砲火ノ爲メ烏有ニ帰シ³⁴、守備中ノ困難ヲ排シ任務ヲ盡シ、九月十九日二十日龍眼北方角面堡攻撃ニ参加シ、同月二十三日脚氣病ニ罹リ第三野戰病院ニ入院セリ。同月二十六日内地後送ノ爲メ青泥窪兵站病院ニ轉送、十月三日遂ニ病死セリ。君生前中ノ功ニ豫リ、死亡當日上等兵ニ昇進ス。死躰ハ青泥窪兵站病院墓地ニ埋葬セリ。

岐阜縣武儀郡上有知町 渡邊董太郎 弟

法名 釋慈道 第九師團野戰砲兵第九聯隊第三中隊

故 陸軍砲兵二等卒 渡邊倉次郎

君ハ、明治三十七年八月五日補充召集ニテ野戰砲兵第九聯隊補充大隊第三中隊ニ編入、九月一日野戰隊補充員トシテ屯營出發、同月三日廣嶋着、同月八日宇品港出帆、同月十一日清國盛京省青泥窪ニ上陸、同日揚家屯ニ着、野戰砲兵第九聯隊第三中隊ニ編入、爾来旅順要塞本防禦線攻圍ニ従事シ、君ハ中隊ニ編入以未日夜勤務ニ盡瘁³⁵シ、其後東北澁ニ幕營シ、旅順背面攻撃ニ従事スルヤ、海軍陸戰隊重砲隊ト共二日夜巨彈落



32 劍山ニ地獄にあるという責め苦の一、たくさんの剣でできた山

33 淋漓ニしたたる

34 烏有ニ帰スニ何もなくなる事

35 盡瘁ニ力を尽くして勞苦する

20發スル危險ノ位置ニ在リテ克ク任務ヲ盡シ、殊ニ九月十九日龍眼北方角面堡攻撃ノ際ハ間接射撃ヲ以テ歩兵ノ援助シタリ。其後病氣ニ罹リ、十月十九日遂ニ第三野戰病院ニ入院、同月二十三日青泥窪兵站病院ニ轉送、然ルニ病氣増々重症トナルモ志氣旺盛、同月十九日附ノ軍事郵便ヲ以テ郷里忠勇會長西部氏ニ宛テ、出征後遺族³⁶ニ對スル謝禮戰地及病院ノ狀況等、終リニ病狀ヲ報シ未レリ。是レソ實ニ辭世ノ自筆ニシテ誠惜ムベキ哉。翌二十日遂ニ病死セラレタリ。死体ハ即日青泥窪兵站病院陸軍墓地ニ埋葬セリ。

岐阜縣武儀郡上有知町字口野々 樋口亀吉 三男

法名 大勇兼哲居士 第九師團歩兵第十九聯隊第十中隊

故 陸軍歩兵一等卒 樋口兼吉

君ハ、明治三十七年九月二十日補充召集トシテ歩兵第十九聯隊補充大隊第二中隊

ニ入隊、十月十二日第六回野戰隊補充員トシテ屯營出發、同月十三日廣嶋着、同

月十五日字品港出帆、同月十九日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同月二十日二龍山ニ着、野戰歩兵第十九聯隊第十中隊

ニ編入シ、同日ヨリ中隊ハ二龍山中腹ニ暮營シ、攻撃準備トシテ毎夜對壕作業ニ從事セリ。然ルニ其日中隊ニ編入ス

ルヤ、同中隊ニハ實兄与三郎氏在隊ニテ、弟兼吉氏ノ編入ト聞クヤ、欣喜雀躍³⁷大ニ悦ビ、共ニ忠君ノ熱誠ヲ以テ勦

21務ニ勉勵セリ。十月二十七日ヨリ旅順要塞總攻撃ヲ開始セラル、ヤ、聯隊ハ二龍山斜堤壕強襲ヲ行ヒシガ、君ハ當

日實兄ト共ニ突撃部隊トシテ勇猛奮進中、身ニ數カ所ノ重傷ヲ受ケ、行通路ニ倒レ居タルヲ、戰友ハ實兄ニ告ゲタ

ルヲ以テ、取敢エズ該所ニ至リ種々介抱シ、水筒ノ水ヲ與エ、辛ジテ暫時言語ハ通ジタルモ、何分重傷ナレバ數分

ノ後手遂ニ名譽ノ戰死ヲセラレタリ。君生前ノ功ヲ以テ、同日一等卒ニ昇進セリ。體ハ一時埋葬シ、三十八年一月

火葬トシ、殘灰モ共ニ揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。



岐阜縣武儀郡上有知町

西部金兵衛 次男

法名 養浩院徳祐正賢居士

第九師團豫備馬廠附

故 陸軍騎兵一等卒 西部賢造

君ハ、明治三十一年四月適齡検査ノ際、平素自ラ進ンテ身ヲ軍籍ニ置キ、一朝事アレバ義勇公ニ奉ズルノ志氣アリテ、軍備擴張ヲ機トシ、慷慨³⁸進ンテ騎兵科ヲ望マレタリ。三十一年十二月一日現役志願兵トシテ第九師團騎兵第九聯隊第一中



隊ニ入隊、三十二年十二月一日騎兵一等卒申付ラレ、三十三年二月東京騎兵旅團第十三聯隊ニ派遣ヲ命ゼラレ、三十四年十一月三十日満期除隊、三十七年二月日露開戦ノ詔勅下ルヤ、五月十五日充員召集ニ

22應ジ、騎兵第九聯隊補充大隊ニ編入、八月三日第九師團豫備馬廠附トシテ屯營出發、同月五日廣嶋着、八月十七日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月二十五日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同日ヨリ旅次³⁹行軍トナルヤ、船中ノ疲勞モアリ、馬匹ハ重量ノ貨物ヲ負ヒ意ノ如クナラズ。殊ニ兩期後ナレバ道路泥濘歩行頗ル困難ヲ極メ、即夜一睡モナク長途行軍ノ爲メ落馬落伍者續出シ、遂ニ二十六日午後十時金州韓家屯李家屯ヲ經テ盤道ニ着、翌二十七日岔溝ニ出タルニ、出遇ヒシ所ハ、嘗テ凹字形山ニテ戦死シタル親友遠藤軍曹ノ墓前ナリ。君ハ涙ト共ニ生靈ニ向ヒ水筒ノ水ヲ据エ、飯盒ノ飯、草花ヲ手向ケ三拜シ和歌三種ヲ詠ジ名残惜シク去ラレタリ。爾後岔溝附近ニ暮營シ、第九師團ハ旅順要塞本防禦線攻圍ニ従事シ、旅順背而攻撃ニテ日夜砲撃熾ナリ。是レニ要スル臼砲⁴⁰加農砲海軍砲等運搬スル馬匹ハ皆道路ノ困難ナル爲落馬廢馬ヲ出シ、然ルニ馬廠隊ハ該地ニ暫シ滞在ノ命ヲ受ケ、其馬匹ノ収容交還ヲ主トシ、九月三十日

36 遺族(ママ)…遺族か

37 欣喜雀躍…小躍りして喜ぶ、喜びの極

38 慷慨…憤って心を奮い起こすこと、意気盛んで感激し易い性質

39 旅次…旅の途中

40 臼砲…火砲の一

同地出發、周家屯ニ着シ專ラ患馬養療及調馬ニ従事セラレ、然ルニ馬廠隊ハ馬匹ノ病院ノ如キ隊ニテ、勤務頓ニ激敷兵員モ疫勞ノ爲メ漸次依病入院シ、此地ニ着スルヤ半數ニナリシガ、君ハ尚屈セス隊長ノ命ヲ遵守シ勉勵セラレシガ、遂ニ風土病ニ罹リ、十月十九日周家屯第二野戰病院ニ入院セリ。次ア十月二十一日同郷出身ノ高井清次郎氏ハ周家屯ニ滞留シ居ラレ、君ノ入院セラレタルヲ知ラズ、豫備馬廠ニ至リ君ヲ訪問セシニ先方ニテ本人ハ目下入院中ナルヲ聞、不取敢病室ニ慰問シタルニ豈圖ランヤ、親蜜ナル友人ハ病魔ノ爲メ、稍危篤ニ近キ状態ナルニ、氏モ大ニ驚キテ23日ク「君未ダ嘗テ一別以來出征後ハ一見セザルニ、此衰弱セラレシ病床ハ何事ゾ。早く全快シ健康ニ成リ玉エ、何レ此義ハ郷里御親父ニモ報知シ在ル哉」ト問フニ答エズ。嗚呼英勇賢明ナル君モ、病ノ爲筆書叶ハザルカト、氏ハ家族ニ報知セント其場ヲ辭シ逐一報告ス。其後一二度見舞シタルモ十月二十七日長嶺子定立病院ニ轉送シ、十一月一日内地後送ノ爲青泥窪出帆、十一月五日字品港上陸、廣嶋豫備病院ニ収容、同月九日病氣次第ニ加リ危篤ノ電報ハ郷里親元ニ達シ、留主^山宅ヨリ兄金一郎氏即刻出廣セラレ、種々看護セラレテ丁寧ニ介抱シタルモ藥石^石功ナク、遂ニ十一月十一日逝去セラレタリ。死体ハ火葬トナシ廣嶋豫備病院陸軍墓地ニ埋葬セリ。

岐阜縣武儀郡上有知町字樋ヶ洞 早戸駒吉 長男

法名 劍空義徹居士 第九師團歩兵第十九聯隊第 43 中隊

故 陸軍歩兵二等卒勳八等功七級 早戸米三郎

君ハ、明治三十七年九月七日補充召集トシテ歩兵第十九聯隊補充大隊第四中隊ニ

入隊、十一月十九日第七回野戰隊補充員トシテ屯營出發、同月二十日大坂着、同

月二十一日大坂築港出帆、同月二十六日清國盛京省青泥窪ニ上陸、同日長嶺子迄鉄道輸送、同日野戰歩兵第十九聯

隊第 44 中隊ニ編入、十二月二日ヨリ師團豫備隊トシテ東八里庄鉄道線附近ニ幕營シ作業及材料運搬ニ従事ス。同

月二十八日二龍山砲臺占領戰ニ参加シ、同日ヨリ二龍山本廓



24 守備ニ従事シ、同月三十一日二龍山新砲臺烏帽子山攻撃ノ準備トシテ偵察斥候ニ派遣セラレ、該地ニ向フヤ時午後四時白晝ナルニ未ダ攻路開ケズ、衆皆決死ヲ以テ奮進肉迫ス。敵ハ俄ニ銃彈ヲ亂射、此際敵彈ニ中リ名譽ノ戦死ヲ遂ゲラレタリ。死骸二龍山麓ニ埋葬セシガ、三十八年一月再ビ火葬トシ、揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。

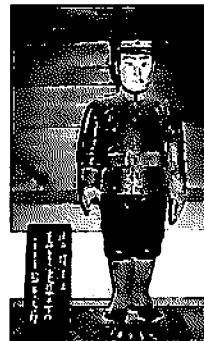
岐阜縣武儀郡上有知町 岩本勇治郎 弟

法名 釋貫正 第九師團歩兵第十九聯隊第四中隊

故 陸軍歩兵二等卒 岩本定治郎

君ハ、明治三十七年九月七日臨時召集トシテ歩兵第十九聯隊補充大隊第三中隊ニ入隊、十一月十九日第七回野戦隊補充員トシテ屯營出發、同月二十日大坂着、同月二十一日大坂築港出帆、同月二十六日清國盛京省青泥窪ニ上陸、同日長嶺子ニ鉄道輸送、同日二龍山着、野戦歩兵第十九聯隊第四中隊ニ編入、十二月二日ヨリ東八里庄鉄道線ニ於テ師團豫備隊トシテ東盤龍山及二龍山ニ作業材料運搬ニ従事ス。十二月二十八日二龍山砲臺占領

25 戦ノ際ハ決死隊ヲ志願シ、同日午前九時本廓斜堤ノ爆破ヲ合圖ニ、隊長加納大尉ノ指揮下ニ屬シ、小隊長馬場特務曹長ト共ニ、一齊ニ呐喊シ該本廓斜堤ニ登ルヤ、増々砲彈ヲ頗發シ、占領工事従事中敵彈ノ爲ニ名譽ノ戦死ヲ遂ゲラレタリ。死骸ハ二龍山麓ニ埋葬セシガ、其後三十八年一月再探掘シ、火葬ノ上



41 42 43 44

留主…主のいなあいだ、代わりに家を守る者

薬石…薬剤の総称

原文空白

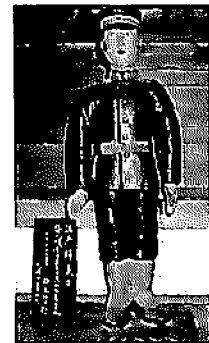
原文空白

残灰ト共ニ揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。君兵藉ハ補充兵ヨリ出デ、七八週間ノ短教育ト雖モ、平素君ニ忠ニ克ク國家ニ盡忠タル大和心ヲ以テ決死隊ヲ志願シ、名譽ナル軍人ノ本分ヲ盡サレタリ。

岐阜縣武儀郡上有知町 鈴木久七 長男

法名 釋義海 第九師團歩兵第三十六聯隊第七中隊

故 陸軍歩兵一等卒 鈴木枏太郎



君ハ、明治三十七年九月五日補充召集トシテ歩兵第十九聯隊補充大隊第二中隊ニ編入、九月十日第四回野戰隊補充員トシテ屯營出發、同月十一日廣嶋着、同月十二日宇品港出帆、同月十六日清國盛京省青泥窪ニ上陸、同日東北灣ニ着、野戰歩兵第三十六聯隊第七中隊ニ編入、同月十九日二十日龍眼北方角面堡攻撃ノ際ハ先頭突撃部隊トシテ第一線ニ加リ、敵ハ各方面ヨリ銃砲火ヲ以テ防戦シ、加ルニ機關砲爆藥ヲ頗發シタルモ、遂ニ二十日午前九時該地ヲ全ク

26占領シタリ。九月二十一日ヨリ龍眼南方水源地附近警戒及夜間作業ニ従事シ、十月三日ヨリ二龍山麓鐵道線擊退ノ目的ヲ以テ攻路作業ニ従事シ、同月九日二龍山脚散兵壕攻撃ニ參加シ、同月十六日二龍山中腹壕攻撃ニ參加、同月二十六日三十日第二回旅順總攻撃ニ參加シ、十一月二十六日第三回旅順總攻撃ノ際、敵ハ二龍山本廓ヲ拒守シ機關砲爆藥ヲ以テ防戦シ、此日聯隊ハ二龍山斜堤壕ニ肉迫シ猛烈ニ攻撃スト雖モ、各方面トモ全滅ニ帰シ慘憺タル狀況ニ陥入り、死傷續出殆ンド帰還スルモノナシ。君ハ此日傳令ノ任務ヲ盡シ、十二月二十日二龍山斜堤壕守備中負傷、入院、同日長周菴第三野戰病院ニ入院、三十八年一月二日長嶺子定立病院ニ轉送、同月八日全愈シタルモ身体疲勞ノ爲重病ニ變ジ遂ニ死亡セリ。死体一時埋葬シ、後第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。

岐阜縣武儀郡上有知町 宮嶋慶治郎 養長男

法名 音樂良聲居士 第九師團歩兵第十九聯隊第二中隊 故 陸軍歩兵二等卒 宮嶋乙吉

君ハ、明治三十七年九月三日補充召集トシテ歩兵第十九聯隊補充大隊第一中隊ニ入隊ノ際ハ、國民ノ代表トシ血稅ノ義務ヲ以テ一身ニ負擔シ、父母親屬ニ離襟^{りかん}シ萬歳声裡ニ送ラレ笑ヲ含シテ召集ニ應ズ。十一月十九日第七回野戰隊補充員トシテ屯營出發、同日大坂築港出帆、同月二十五日清國盛京省背泥窪ニ上陸、同月二十六日二龍山着、野戰歩兵第十九聯隊第二中隊ニ編入、十二月二日ヨリ東八里庄鉄道線附近ニ幕營シ二龍山及盤龍山ニ作業及材料運搬ニ從事ス。

27十二月二十八日二龍山砲臺占領戰ニ參加シ、同日ヨリ三十一日ニ亘ル二龍山本廓守備ニ服シ、同日二龍山新砲臺烏帽子山攻撃ノ際ハ彈藥運搬トシテ、砲煙彈雨ノ裡ニ任務ヲ全シ、三十八年一月一日該砲臺攻撃ニ移リ、奮進敵壘ニ迫リ砲彈下ニ在テ克ク占領工事ニ從事ス。同月二日旅順開城、同月十九日ヨリ旅順新市街守備ニ服シ、同月二十六日午前四時北進ノ命ニ接シ長嶺子ニ向テ行軍トナルヤ、寒風凜烈肌ヲ貫キ、加ルニ昨夜未ノ降雪尺餘、道路險惡ナルヲ排シ、午後一時長嶺子ニ着、同月二十七日海城ニ着、同日ヨリ行軍シ黃泥窪小北河ヲ經テ大沙嶺ニ着シ、二月二十七日迄金山屯守備ニ服ス。同月二十八日軍ハ行動ヲ開始シ守備地出發、三月一日四方臺攻撃ニ參加シ、二日影驛店攻撃ノ際ハ朝未降雪激數午前ヨリ敵ノ歩騎兵ヲ驅馳⁴⁵シ北三臺子ヲ占領シ、更ニ一隊ヲ出シ飄花子影驛店ヲ占領セリ。然ルニ優勢ナル敵ノ騎兵逆襲シ来リ。軍ハ其夜戰鬪前哨ノ隊形ヲ以テ警戒頗ル嚴重ナリ。然ルニ君ハ前哨トナリ影驛店前方二百米突ノ所ニ守備シ居タルニ、逆襲ノ爲メ小哨ノ兵ハ全滅シ、遂ニ翌朝應援隊ヲシテ奪還スルヲ得タルモ、君ハ此役敵ノ襲撃ノ爲ニ苦戰シ、遂ニ名譽ノ戰死ヲセラレタリ。然ルニ我同胞ナル第七師團衛生隊附

輻重兵^{しんじゆ}上等兵川上門吉氏ハ、其後日ナラズ行軍途中該地ヲ過ルニ、路傍ニ君カ慘死ノ状ヲ見ルニ忍ビズ、早速御親父ニ知ラセント種々手係リヲ調タルニ、不思議ニモノ端書君ノ傍ニ散アルヲ閱スルニ、即チ實父ヨリ君ニ宛タル郵書故ニ早速親元ヘ報ジ越シタリ。四月一日父ノ元ヘ一封ノ軍事郵便ハ更ニ見覺ナキ第七師團所屬ノ手紙着セシガ、直ニ當町忠勇會長西部金兵衛氏ノ元ヘ持来レリ。氏ハ文ヲ開キ見ルニ、

28親切ナル御子息戰死トアル單文ナレバ父モ大キニ驚キ、西部氏モ寸腸ヲ断タル、感ニ徹シ、早速今一度細カニ問合スニ而カズト、川上氏ノ元ヘ如何ナル場所ニテ戰死ノ狀況等ヲ尋ネタリ。會長モ大イニ熱誠ヲ以テ盡力セラレタル結果、其後返信未リ。其文ニ曰ク「君ガ最愛ナル乙吉氏ハ影驛店ニ於テ慘死ヲ遂ゲ、遺屍ハ腹部ヲ寸断ニ切り、両眼球ヲ穿鑿シ遺骸^がハ軍服ヲ盜脱シ、實ニ露兵ノ野蠻極マル仕業、最モ悪ムベキヤ」。嗚呼之ヲ聞ク親父ノ心情察シ難ク、血アリ涙アル同情ハ彼レ川上氏ノ目撃シテ以テ親父ニ報スルノ感起シタルハ實ニ無慘ノ戰死ト想像スルヲ得ズ哉。死骸ハ該地ニ埋葬シ十一月上旬火葬ト成シ残灰ト共ニ清國北滿州奉天省奉天府第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。

岐阜縣武儀郡上有知町字上條 山口辨治郎 四男

法名 準雄義精居士 第九師團歩兵第十九聯隊第七中隊 故 陸軍歩兵一等卒 山口淺松

君ハ、明治三十七年五月十五日充員召集ニ應ジ、歩兵第十九聯隊補充大隊第二中隊ニ編入、同月二十日身体検査不結果召集解除、八月五日補充召集トシテ歩兵第十九聯隊補充大隊第二中隊ニ編入、九月三日第四回野戰隊補充員トシテ屯營出發、同月四日廣嶋着、同月七日宇品港出帆、同月十二日清國盛京省青泥窪ニ上陸、同月十四日東北海ニ着、野戰歩兵第十九聯隊第七中隊ニ編入、同月十九日二十日龍眼北方角面堡攻撃

29ニ参加シ、爾來後八里庄ニ於テ夜間戰闘作業ニ従事シ、同月二十八日ヨリ二龍山砲臺攻撃準備トシテ攻路作業ニ従事シ、同月九日二龍山脚散兵壕攻撃ニ従事シ、同月十六日二龍山中腹散兵壕攻撃ニ参加シ、同月二十六日、三十日

旅順總攻撃ニ參加シ、爾來ニ龍山斜堤壕攻撃準備トシテ對壕作業ニ従事シ、十一月二十六日第三軍ハ旅順要塞第三回總攻撃ノ際ニ龍山斜堤壕攻撃ノ爲メ第一突擊部隊ニ加リ、突進ノ際機關砲ノ爲名譽ノ負傷ヲ受ケ、同日長周菴第三野戰病院ニ收容、十二月六日青泥窪ニ着、同日内地後送、同月十一日宇品港上陸、同日廣嶋豫備病院ニ收容、同月十四日金澤豫備病院ニ轉送、三十八年二月五日全治退院、同日歩兵第十九聯隊補充大隊第一中隊ニ編入、同月十七日第十四回野戰隊補充員トシテ屯營出發、同月十八日廣嶋着、同月二十日再征宇品港出帆、同月二十四日清國盛京省大連ニ上陸、同月二十四日出發、翌二十五日遼陽着、同月二十七日金山屯着、野戰歩兵第十九聯隊第七中隊ニ編入、同月二十八日ヨリ軍ハ行動ヲ開始シ、三月一日四方臺攻撃ニ參加シ、同二日影驛店攻撃ニ參加、同月四日五日揚土屯攻撃ニ參加シ、同六日大石橋附近ノ戰鬪ニ參加シ、同月七日造化屯攻撃ノ際、敵ハ優勢ヲ以テ土壁内ニ入り銃眼ヲ穿テ機關砲ヲ備ヘ居タリ。我軍ハ一而開路^{かち}ナル畑地ニ散開シ、加ルニ連日ノ攻撃ニ疲勞スル己身ナラス、兵力僅少ニシテ地形最モ不利ナリ。午後四時頃大隊ハ突擊ヲ始ムルヤ奮進ノ際、名譽ノ負傷數カ所ニ負タルモ尚前進セリ。其後中隊ニテハ生死疑問ナリ。十一月當中隊ニテ各兵站及野戰病院並ニ内地補充隊ニ間合セタルモ更ニ收容ノ形跡ナク遂ニ戰死ト認定

30シ通知ヲ受ク。死躰ハ火葬トシ清國奉天省奉天府第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬ス。君ノ如キハ再征從軍シ數回負傷シタルモ平素忠實ナル、實ニ後世ニ名譽ヲ揚ゲ軍人ノ龜鑑^{きうかん}ナリ。

47 輜重兵…軍需品の輸送・補給にあたる兵
道躰(ママ)…遺体か

49 開路…ひろやかにうちひらける

50 龜鑑…かがみ、模範

岐阜縣武儀郡上有知町 岩本角次郎 長男

法名 釋誓郭 第九師團第十七補助輸卒隊

故 陸軍輜重輸卒⁵¹ 岩本増吉

君八、明治三十八年二月十六日充員召集ニ應ジ、第九師團輜重兵第九大隊第十七補助輸卒隊ニ編入、三月一日金澤出發、同月二日廣嶋着、同月四日征露徒軍ノ爲

メ宇品港出帆、同月七日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同月二十八日同地出發行軍シ、同月二十七日清國盛京省馬三家子ニ着、爾来同地ニ駐留シ日夜勤務ニ従事シ、彈藥糧食其他軍需品ヲ運搬シ、殊ニ同月二十八日ヨリ奉天附近ノ會

戰ニ際シ連日連

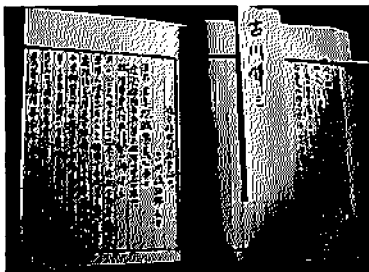
31夜兵站勤務ニ従事シ、七月二十八日病ニ罹リ馬三家子療養所ニ入院シタルモ、次第重床ト成リ、八月十五日遂ニ病死セラル。死体ハ火葬トシ馬三家子ニ葬ムリシガ、十一月再ビ残灰共ニ清國盛京省奉天府第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。

岐阜縣武儀郡上有知町 古川鐵治郎 長男

法名 至孝院誠譽義心居士 近衛師團歩兵第三聯隊第三中隊附

故 陸軍歩兵伍長勳七等青色勳 古川健三

君八、明治三十六年十二月一日徵兵トシテ近衛歩兵第三聯隊第三中隊ニ入隊、三十七年二月五日勳員下令、同月七日近衛歩兵第三聯隊補充大隊第一中隊ニ轉入、三月十三日第一期檢閲ノ爲メ千葉縣習志野ニ出張、同月二十六日帰營、九月十四日野戰隊補充員トシテ東京出發、同月十七日廣嶋着、同月十八日宇品港出帆、同月二十二日清國盛京省青泥窪ニ上陸、同月二十八日野戰近衛歩兵第三聯隊第三中隊ニ編入、十一月十一日十二日老



君峪北方

32高地ニ於テ戦闘ニ参加、同月十三日十四日八家子東北方高地ニ於ケル戦闘ニ従事、十二月二日歩兵一等卒ニ申付ラル、三十八年二月二十五日ヨリ軍ハ行動ヲ開始シ守備地出發、同月二十五日二十六日姚千戸屯ニ於テ戦闘ニ従事シ、同地守備中同月二十八日及び三月一日姚子戸屯ニテ敵ハ逆襲シ来リ、数回ノ戦闘ニ参加シ、三月二日ヨリ前進、同月七日迄唐家屯附近ニ於テ戦闘ニ従事、同月十日蒲河ニ於テ戦闘ニ参加、三月十五日歩兵上等兵申付ラル。爾後近衛第二旅團司令部附近ニ派遣ヲ命ゼラル。其後在勅中九月十三日熱病ニ罹リ、清國盛京省北英城舎營病院ニ入院、十月十五日腸窒扶斯^{ホフス}ノ爲メ遂ニ病死セラル。君生前ノ勤功ヲ以テ、同日任歩兵伍長。死躰ハ火葬トナシ清國奉天省奉天府滿州軍忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。

岐阜縣武儀郡上有知町二・十九十六番 岩見きよの

法名⁵² 後備第九旅團歩兵第十九聯隊第六中隊

故 陸軍歩兵一等卒 岩見庄之助

君ハ、明治三十七年七月十六日充員召集ニ應ジ後備歩兵第十九聯隊第六中隊ニ編入、同月二十三日屯營出發、同月二十四日廣嶋着、八月十四日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月十九日清國盛京省安東縣ニ上陸、同月二十二日安東縣出發、同月二十七日城廠着、九月二十日過嶺從附近ノ戦闘ニ参加、十月八日ヨリ十日ニ至ル城廠ノ戦闘ニ参加、同月十二日ヨリ南下ノ敵ヲ撃攘⁵³スル目的ヲ以テ城廠出發、連軸嶺ヲ經テ三咀子ニ至リ更ニ小市ヲ經テ高力



51 輻重輪卒・輻重兵の監督下に軍需品の運搬に従事する兵

三冊いずれにも法名の記載なし

53 撃攘・撃つて追い払う、撃退

33 營子及ビ太子河兩岸ノ地敵ナキヲ以テ、十月十九日城廠ニ復歸ス。十二月二十日黄家堡子出發、二十二日朴家堡子ニ着シ、同地附近ノ警戒ニ從事ス。然ルニ君ハ同郷軍人中岩見駒治郎岩見權三郎氏ト共ニ平素同一ノ小隊ニ勤績セシ事ヲ望ミ、當町出身ナル河合少尉氏ノ盡力ニテ遂ニ同小隊ニ轉入セラレタリ。次テ三十八年一月四日君ノ小隊ハ小哨トナリテ腰保ニ警戒勤務中、此地ハ奉天街道ニシテ敵ノ樞要ナル地点ナレバ、屢々敵ハ逆襲シ来リテ警戒頗ル困難ナリ。此日敵ノ騎兵數百我歩哨線ニ襲撃シ来リ、爲ニ偵察斥候ニ出テタル際不意ニ包圍ヲ受ケ負傷スルモノ數名、遂ニ三氏共ニ敵ノ手ニ捕ワルモ不得止ニ至レリ。後敵ノ司令部ニ護送セラレ東清鐵道ニテハルピンニ着スルヤ岩見權三郎氏ハ熱病ニ罹リ、ハルピン露國赤十字病院ニ入院セリ。其後ハ露國內地日本俘虜收容地ナルメドウエードト云フ一村落ニ收容セラレ、此地ニテ須田鶴吉氏ニ面會シタルト、駒次郎氏ヨリ收容地ノ狀況、朝夕ハ麥粉⁵⁴塩汁ソツプ⁵⁵牛干肉等、又同胞俘虜中ニハ盲目者アリテ不具者大イニ困難シ居ル狀況、幽囚ノ身トナリ実ニ故山ヲ思ヒ暮ストノ報知来レリ。依テ當町忠勇會長西部氏ハ三氏ノ心情ヲ察シ、右慰問ノ爲メ各篤志家ト相謀リ衣類日用品凡ソ二百点ヲ集メ、四貫匁包四個ニ仕上ゲ、俘虜情報局宛ニテ送附シ、露國メドウエード三氏ニ寄贈シタリ。然ルニ十一月其禮狀ト共ニ、歡喜極マル文ト、君カ病死ノ報来レリ。其文ニ、君ハ十月二十七日ヨリ腹痛ニ犯サレ、十一月五日遂ニ病死セリト云フノミ。後平和克復トナリ、三十九年二月日本兵ノ俘虜ハ神戸和田岬ニ上陸シ、岩見須田両氏ヨリ報知来レリ。又同月十五日同胞俘虜ナル郡上郡西和良村小那比

34 出身河合俊次郎氏ヨリ、遺族ニ宛テ君カ死亡當時ノ狀況報シ来リ。閱スルニ此人ハ三十八年三月八日奉天會戰ニテ俘虜トナリ、爾來敵國ニ幽囚ノ處、村上大佐ノ命ニ據リ庄之助氏及須田岩見両氏ト共ニ三十三名ノ分隊長トシテ、互ニ相扶助シ居タル處、君ハ十月二十七日ヨリ腹痛ノ爲メ直ニ露國軍醫ノ診察ヲ受ケ、日本俘虜中ノ難波軍醫モ會診セラレ、同日入院、病症ハ急性腸加答兒⁵⁶（朱背・心臟麻痺）ニテ、爾後彼我軍醫ハ日ニ三回ツ、診察セラレタルモ病勢次第ニ加リ、藥石功ナク、遂ニ十一月五日逝去セラレ、同月八日埋葬ス。道師ハ福井縣敦賀郡粟野村朝日山養徳庵住職中村童戒師及富山市本派信行寺住職小野房賢生師ニテ、村上大佐以下日露軍人參拜等鄭重ニ執行セラ

レ、病床中阿氏ハ勿論、富山市泉町上等兵上田景秋氏ハ熱誠以テ看護ニ従ヒタリト報アリキ。

岐阜縣加茂郡富岡村 石原伴吉 長男

法名 石城軒精道宗祐居士 第九師團歩兵第十九聯隊第十中隊

故 陸軍歩兵上等兵 石原精六



君ハ、明治三十五年十二月一日徴兵トシテ歩兵第十九聯隊第十中隊ニ入隊、三十六年十二月一日歩兵一等卒申付、三十七年五月九日動員下令、六月二十八日野戰隊トシテ屯營出發、七月十六日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月二十日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同月二十一日ヨリ金州及季家屯ヲ經テ、同月二十三日盤道ニ着シ、同月二十三日ヨリ岔溝附近ニ於テ警戒勤務ニ服シ、同月二十六日凹字形山攻撃ニ従事シ、同二十七日第三堡壘占領後第

35 一線守備ニ服シ、同月三十日干大山攻撃ニ従事シ、八月十五日ヨリ草家屯南方高地ニ於テ前哨勤務ニ服シ、同月十八日ヨリ旅順要塞本防禦線攻圍ニ従事シ、同月十九日第一回旅順總攻撃トナルヤ、西八里庄附近ニ前進シ師團豫備隊ニ服シ、同月二十四日將校斥候ニ従ヒ盤龍山ニ至リ、其際敵彈ノ爲メ負傷シ、即日三里庄^{けんたいじょう}綯帶所⁵⁷ニ收容、同月二十八日内地後送ノ爲メ青泥窪出帆、九月三日宇品港上陸、同日廣嶋豫備病院ニ入院、同月二十日金澤豫備病院ニ轉送、十月十四日全治退院、同日歩兵第十九聯隊補充大隊第四中隊ニ編入、十二月二日歩兵上等兵申付、三十八年二月十七日第十四回野戰隊補充員トシテ屯營出發、同月十八日廣嶋着、同月二十日再征宇品港出帆、同月二十四日清

54 55 56 57

麥粉・きびの粉

ソツブ…不明

膾加答兒…腸炎のこと

綯帶所…綯帶は包帯に同じ、救護施設か

國盛京省大連ニ上陸、同日出發、同月二十五日遼陽着、同月二十七日金山屯着、野戰歩兵第十九聯隊第十中隊ニ編入、同月二十八日軍ハ行動ヲ開始シ守備地出發、三月一日四方臺攻撃ノ際第三大隊ハ第一線ト交代シ、翌二日影驛店攻撃ノ際ハ朝未明ヨリ降雪頓ニ加リ吹雪増々激敷、午前ヨリ敵ノ歩騎兵ヲ驅逐シ北三臺子ヲ占領シ、更ニ影驛店ヲ占領セリ。然ルニ優勢ナル敵騎ハ其夜ニ至ルモ尚大集團ヲ成シ逆襲ノ憂モアリ。且敵ノ歩兵ハ嚴然擊退スルヲ得ズ。軍ハ當夜戰鬪前哨ノ隊形ニテ警戒シ、寒氣増々身ニ徹シ凍死スル者アリキ。君ハ三月三日敵ノ未明ニ退却シタルヲ以テ前進中、小隊長負傷ニツキ擔架ニ乗セ繩帶所ニ收容セントスル際、即時敵ノ砲彈ニ中リ遂ニ名譽ノ戦死ヲセラレ、其後隊長ヨリ通報ト共ニ君ガ勳績ヲ揚ゲ遺族ニ宛テ

36 弔詞文ヲ送ラレタリ。死骸ハ附近ニ埋葬シ、十一月火葬ト成シ清國奉天府第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。

岐阜縣武儀郡安曾野村大字曾代 西部甚吉 長男

法名 金山義剛居士 第九師團歩兵第十九聯隊第七中隊 故 陸軍歩兵上等兵勳八等功七級 西部金治郎

君ハ、明治三十七年五月十五日充員召集ニ應ジ、歩兵第十九聯隊補充大隊第四中隊ニ編入、八月二十五日第三回野戰隊補充員トシテ屯營出發、同月二十六日廣嶋着、同月二十七日字品港出帆清國盛京省青泥窪ニ上陸、同月三十日東北濱ニ着、野戰歩兵第十九聯隊第七中隊ニ編入、十月一日ヨリ二龍山砲臺攻撃準備トシテ攻路作業ニ従事シ、同月九日二龍山脚散兵壕攻撃ニ參加シ、爾來連日連夜對壕作業ニ従事シ、同月二十六日及ビ十一月廿六日

37 二龍山中腹散兵壕攻撃ニ參加シ、十一月廿六日ハ第三軍ノ旅順要塞第三回總攻撃ヲ開始シ、聯隊ハ二龍山斜堤散兵壕攻撃ノ命ニ接シ、此日君ハ中隊ノ傳令使トシテ砲煙彈雨ノ裡ニ在リテ勇猛果敢克ク任務ヲ全セリ。十二月一日ヨリ二龍山本廓斜堤線ニアリテ警戒中、同月十七日中隊第一線警戒中傳令任務ノ爲敵彈ニ中リ名譽ノ戦死ヲ遂ゲラレタリ。君ハ生前ノ功ニ據リ歩兵上等兵ニ昇進セラル。實ニ旅順攻圍間日夜勤務ニ従事セラレ、軍人ノ模範タリ。死骸ハ二龍山麓ニ埋葬セシガ、三十八年一月骸骨ヲ火葬トシ揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。

岐阜縣武儀郡上有地町 松田たよ 戸主

法名 義峰宗仁居士 第九師團後備歩兵第十九聯隊第五中隊 故 陸軍歩兵一等卒 松田藤十郎

君ハ、明治三十七年七月十五日充員召集ニ應ジ、歩兵第十九聯隊補充大隊ニ編入、同日後備歩兵第十九聯隊第五中隊ニ編入、八月八日屯營出發、同月九日廣鳴着、同月十四日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月十八日清國安東縣ニ上陸、同月二十二日同地出發、同月二十七日城廠着、守備同三十一日城廠出發、九月五日下午石橋子着、守備同月十一日同地出發、同十三日城廠復帰守備、同月二十日大嶺附近ノ戰鬪ニ參加、

38 同月二十一日城廠復帰、十月八日ヨリ十日ニ至ル間城廠ニ於テ戰鬪、十月十三日南下ノ敵ヲ擊攘ノ目的ヲ以テ城廠出發、連軸嶺ヲ經テ山咀子ニ至リ、更ニ小市ヲ經テ張家堡子ニ至リ、同月十九日城廠復帰、三十八年二月二十日ヨリ二十四日ニ至ル小甸子附近ニ於テ戰鬪、二十五日ヨリ地塔附近ニ於テ戰鬪、三月二日奉天附近ノ大會戰ニテ敵彈ノ爲メ名譽ノ戰死ヲ遂ゲラレタリ。死躰ハ火葬トシ、清國奉天府第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。行年二十九才。

岐阜縣武儀郡下牧村字藤生 近藤竹造 長男

法名⁵⁸ 第十三師團歩兵第五十二聯隊第一中隊 故 陸軍歩兵上等兵 近藤清七郎

君ハ、明治三十七年十二月一日徵兵トシテ歩兵第十九聯隊補充大隊第五中隊ニ入隊、爾來學術科ニ勉勵シ、上等兵候補者ニ撰拔セラレ、日増軍務ニ服シ、樺太遠征軍編成トナルヤ君ハ獨立第十三師團歩兵第五十二聯隊第一中隊ニ編入シ、五月四日野戰隊トシテ屯營出發、三十八年五月六日青森縣黒石町ニ着シ、七月五日青森港ニ着、七月十日歩兵一等卒申付ラル、同月十二日征露ノ爲メ青森港出帆、北海道函

39 館及小樽ニ寄港シ、同月二十四日午後三時露領薩哈^{サハリン}嶼ニ上陸シ、君ハ黒石出發、以耒第一大隊本部附傳令卒トシテ、日夜軍務ニ勉勵シ、次ア大隊副官歩兵中尉市川恭助氏ノ從卒ニ撰バレ、諸事上官ノ意旨ニ適シ、上陸當日ハ營戒行軍ニテアルコフニ到着シ、敵ハ同市街ニ棲息シ堅固ニ據守セシガ、我軍ノ上陸スルヤアレキサンドルフニ退却セリ。軍ハ破竹ノ勢ヲ以テ追撃前進シ、遂ニ同日午後十時該地ヲ占領ス。當夜ハ軍一般ニ同地東北方高地ニ露營ヲ成シ、二十五日午前三時出發、市街ヲ通過シ敵兵ヲ追撃シ、同日午後一時ノウミハイノスコウイ攻撃ニ参加シ、敵ハコサツク騎兵及歩砲兵約四千ニシテ熾ニ銃砲彈ヲ頗發シ抵抗セシガ、戰鬪約五時間ニ亘リ、同日午後六時遂ニ占領ス。同夜村落ノ東端ニ幕營シ、携帶口糧ヲ以テ自炊シ僅ニ餉ヲ凌ギタルノミ。敵ハ其夜十時俄然我幕營前五百米突ノ高地ニ防禦陣地ヲ施シ發砲セリ。我軍ハ之ニ應戰シ、翌二十六日午前六時該地ヲ占領ス。同日追撃前進シ、ア^{イノミス}コウイ攻撃ニ参加シ、午後十時遂ニ占領セリ。其夜午前三時出發、同月二十七日マフロツモフ攻撃ニ参加シ、午後三時占領ス。當夜カイノミスコウイニ引返シ、同月二十九日同地出發、同日午後五時ノウミハイノスコウイニ着シ同地守備ニ服ス。後チアレキサンドルフ港守備ニ服ス。九月二日同港出帆、同月七日青森港上陸、同月十日青森出發、同月十二日廣嶋着、同月二十七日歩兵上等兵申付ラル、同月二十八日臺灣守備交代トシテ字品港出帆、十月一日臺南ニ上陸、同日嘉義ニ着シ同地守備ニ服ス。爾耒公務ニ勉勵セシガ、三十九年一月十二日麻^{マツリ}刺^ツ利^リ重熱病⁵⁹ニ罹リ入院ス。一月十八日午前七時遂ニ病

40 死セリ。死骸ハ同地陸軍墓地ニ埋葬ス。行年二十二才。

岐阜縣山縣郡梅原村二百拾三番戶 後藤はる 養長男

法名 如心準東堂隣翁徳和尚大禪師 第九師團歩兵第三十六聯隊第十二中隊

故 陸軍歩兵一等卒勳八等功七級 土岐直徳

君ハ、明治三十二年三月一日補充兵トシテ歩兵第三十六聯隊第十二中隊ニ入隊、



同年五月三十日教育終了除隊、三十七年五月十四日充員召集ニ應ジ、歩兵第三十六聯隊補充大隊第二中隊ニ編入、八月一日第二回野戰隊補充員トシテ屯營出發、同月二日廣嶋着、同月七日宇品港出帆、同月十二日清國盛京省青泥窪ニ上陸、同月十八日周家屯着、同日野戰歩兵第三十六聯隊第十二中隊ニ編入、爾來旅順要塞本防禦線攻圍ニ従事シ、同月十九日ヨリ第三軍ハ

41旅順要塞第一回總攻撃ヲ開始スルヤ、聯隊ハ龍眼北方角面堡攻撃ノ命下リ、該地ハ一面開豁ナル地ニテ稍高地ヲ成シ、敵ハ角面ノ塹壕ヲ築造シ機關砲ヲ仰エ、鐵條網ノ副防禦ヲ設ケ堅固ニ據守セリ。聯隊長三原大佐ハ先ズ第二、三大隊ヲ以テ、攻畧ノ爲メ第一線攻撃部隊トシテ猛烈ニ前進セシガ、同日午後六時ニ至ルモ容易ニ第一歩兵線ヲ攻畧ノ端緒開ケズ、熾ニ銃砲火ヲ頻發シ死傷續出シ、加ルニ電流鐵條網ノ爲メニ攻撃進捗セズ益々悲境ニ陥リ、其夜工兵ヲ以テ鐵條網竝ニ鐵校内⁶⁰ノ機關砲破壞ニ着手シ漸ク進路ヲ作り、殘隊ハ第一壕歩兵線ヲ占領セント壘下ニ肉迫シ鷄明ヲ待タルニ、豈ニ圍ランヤ、翌朝敵ノ包圍ヲ受ケ敵手ニ斃レ又ハ捕獲セラレ、泥水ノ爲メ指揮衰へ、遂ニ全滅ノ悲境ニ陥入り、敵ノ謀計ニ我將卒ハ各自ノ處分ニ苦ミ退却スル止得ザルニ至レリ。悲境慘愴筆紙ニ盡シ難シ。此役第二、三大隊ニテハ將校下士卒死傷算ナシ、僅ニ中隊ニテ幾十名ト云フモノ帰來セシモ、皆各自ニ服ノ儘敵ノ歩哨線ヲ脱シ我軍ニ合シタリ。慘狀ト云フベシ。同月二十二日ヨリ二十六日迄盤龍山東舊砲臺守備ニ服スヤ、先占領工事ニ着手セシガ、該山ハ一面岩石露出シ、殊ニ突撃ノ際ニ於ケル伏屍累々悲慘ヲ極メ、敵ノ包圍ヲ受ケ、折角一夜ノ難工事モ銃砲彈ノ爲メ烏有ニ帰シ、守備中ノ困難ヲ排シ遂ニ歩兵第十九聯隊第一大隊ト交代シ、同月二十九日ヨリ五家房占領工事ニ従事シ、九月一日ヨリ東北溝ニ移リ角面堡攻撃準備トシテ攻路作業ニ従事ス。然ルニ該角面堡ハ水源地前方ニテ敵ノ最モ信頼スル樞要ノ位置ナレバ、我工事ノ進捗ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ屢々逆襲シ

刺し刺か？
鐵校…校はてすり

来り。格闘絶ユル事ナシ。然ルニ我工事

42モ進ミ、九月十九日二十日龍眼北方角面堡攻撃復仇^{たうり}戰ナレバ、該地攻撃ノ當日聯隊ハ第一線突撃隊トシテ前日ヨリ重砲陸戰隊ヲ以テ砲撃ヲ加ヘ、同日午後一時一齊ニ突撃シタリ。敵ハ機關砲爆藥ヲ以テ防戦シ、激戦格闘シ、其夜ハ投爆彈ノ交換ニ夜ヲ徹セリ。翌二十日午前五時敵ノ根據トスル中央ノ掩蓋部ニ突入シ該地ヲ占領セシモ、尚屈セス、水濠西岸ニ退キ頑固ニ抵抗セシガ、午前十時全ク占領ノ實ヲ揚ゲタリ。殘敵ハ水師營方向ニ退却ス。同月二十一日ヨリ龍眼及水源地附近ノ戰闘ニ従事シ、或ハ二龍山麓鐵道線攻畧ノ目的ヲ以テ攻道作業ニ従事シ、十月二日ヨリ二龍山對壕作業ニ従事シ、同月九日二龍山脚散兵壕攻撃ニ參加シ、同月十六日二龍山中腹散兵壕攻撃ニ參加シ、十月二十六日ヨリ第三軍ハ詔勅ニ據リ旅順要塞第二回總攻撃ヲ開始スルヤ、聯隊ハ二龍山右翼攻撃攻路ヨリ二龍山斜堤散兵壕ニ向ヒ、突撃部隊順序ニ進撃猛進セシガ、連日連夜重砲攻城砲ヲ以テ砲撃ヲ續行シ全力ヲ注グト雖モ、其功ナク、十一月一日ニ至ル一週余日ノ激戦ニテ聯隊ハ全滅シ攻撃ヲ中止セリ。君ハ十一月一日最後ノ戰闘ニ敵彈ノ爲メ名譽ノ戦死ヲ遂ゲラレタリ。君ハ旅順攻圍軍ニ加リ聯隊ニ編入、以素忠實ニ勤勉シ、屢々九死一生ノ危境ヲ超エ砲烟彈雨ノ間ニ戰闘ニ従事シ、實ニ好古ノ軍人モ、茲ニ本分ヲ盡サル。名ヲ後世ニ殘シ軍人ノ模範タリ。死躰ハ二龍山麓ニ埋葬セシモ、三十八年一月採掘シ火葬ト成シ、殘灰ト共ニ揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。行年二十七歳。

43 岐阜縣武儀郡藍見村大字笠神 東海みね 二男

法名 妙心準東堂至道孝和尚大禪師 第九師團歩兵第十九聯隊第九中隊附

故 陸軍歩兵軍曹勳七等功七級 東海祖孝

君ハ、明治二十四年十二月一日歩兵トシテ近衛師團歩兵第一聯隊第八中隊ニ入隊、二十六年十一月一日歩兵一等卒申付ラル、二十八年三月三日歩兵上等兵申付

ラル、同月二十四日野戰隊トシテ屯營出發、同月二十六日廣嶋着、四月九日征清ノ爲メ宇品港出帆、同月十二日清



国大連湾ニ錨泊、同月二十一日柳樹屯ニ上陸、同月二十二日小山宕ニ着、同月十七日鐘家屯ニ着、同月二十二日旅順港ニ着、同日登

灣征討ノ爲メ旅順港出帆、同月三十日臺灣鳴洩底ニ上陸、

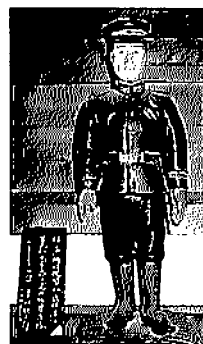
44 六月一日同地出發、同月二日瑞寶ニ於テ戰鬪、同月三日基隆ニ於テ戰鬪、同月七日同地出發、同月八日臺北着、八月八日臺北出發、同月十三日后境ニ於テ戰鬪、同月十六日苑里着、同月二十五日二十六日大吐溪右岸ニ於テ戰鬪、同月二十八日彰化八卦山ニ於テ戰鬪、同月三十日北斗ニ着、九月三日大甫林他里霧間ニ於テ戰鬪、同月五日六日他里霧ニ於テ戰鬪、同月九日北斗ニ着、十月五日同地出發、同日樹仔脚ニ於テ戰鬪、同月他里霧ニ於テ戰鬪、同月八日大甫林附近ニ於テ戰鬪、同月九日嘉義ニ於テ戰鬪、同月十一日北碇着、同月十九日大茄苳仔ニ着、同月二十六日嘉義ニ着、十一月六日同地出發、同月八日臺南着、同月十三日凱旋ノ爲メ打狗港出帆、同月十八日宇品港上陸、同月二十日東京市ニ凱旋、十一月二日滿期解隊、同月三十日二十七八年戰役ノ功ニ依リ叙勳八等賜瑞寶章、三十七年九月一日補充召集トシテ歩兵第十九聯隊補充大隊第四中隊ニ編入、九月六日第五回野戰隊補充員トシテ屯營出發、同月八日廣嶋着、同月十一日宇品港出帆、同月十五日清國盛京省青泥窪ニ上陸、同日東北海着、野戰歩兵第十九聯隊第九中隊ニ編入、爾來旅順要塞本防禦線攻圍ニ從事シ、同月十九日二十日龍眼北方角面堡攻撃ニ從事シ、同月二十一日ヨリ水源地及水師營附近ノ警戒勤務ニ從事シ、殊ニ夜間戰鬪作業ニ從事ス。十月五日ヨリ二龍山對壕作業ニ從事シ、十月九日二龍山脚散兵壕攻撃ニ參加シ、十月十六日二龍山中腹散兵壕攻撃ニ參加シ、十月二十六日三十日旅順要塞第二回總攻撃ニ參加シ、十一月十日任歩兵伍長、十一月二十六日旅順要塞第三回總攻撃ノ際、二龍山斜45 堤強襲戰ニ參加シ、十二月二十八日二龍山砲臺占領戰ニ參加シ、三十八年一月旅順開城、後同月十四日ヨリ旅順舊市街守備ニ服シ、一月二十九日北進ノ爲メ旅順出發、長嶺子着。同月三十一日遼陽着シ、二月一日黃泥窪着、同地

守備ニ服ス。同月二十七日ヨリ軍ハ行動ヲ起シ守備地出發、三月一日四方臺攻撃ニ參加シ、三月二日彰驛店攻撃ノ際敵彈ニ中リ名譽ノ戰死ヲ遂ケラレタリ。君生前ノ勳功ニ據リ死亡當日ヲ以テ任步兵軍曹。君ハ二十七八年戰役及日露兩役ニ從軍シ、殊ニ旅順要塞ハ東洋無二ノ難攻不落ト自称シタル堅城ノ攻圍ニ從事シ、奉天大會ニテ天晴軍人ノ本分ヲ盡シ名ヲ後世ニ傳エ軍人ノ龜鑑ト云フベシ。死骸ハ火葬トナシ、殘灰ト共ニ清國奉天省奉天府第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。行年三十四歳。

岐阜縣武儀郡下牧村長瀬百四十六番戶 平林徳四郎

法名 將領院繁林良植居士 第九師團步兵第十九聯隊第二中隊附

故 陸軍歩兵軍曹勳七等功七級 平林植三郎



君ハ、明治三十四年十二月一日徵兵トシテ歩兵第十九聯隊第二中隊へ入隊、三十五年四月上等兵候補者ニ撰拔セラレ、自來軍務ニ勉勵シ、十二月一日歩兵一等卒申付ラレ、同日歩兵上等兵申付ラル、三十七年五月九日勳員下令、六月一日任歩兵伍長、六月二十七日野戰隊トシテ屯營出發、同月二十八日廣嶋着、七月十五日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月十九日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同月二十日金州着、同月二十三日ヨリ盤道北方高地ニ於テ

46 三晝夜ニ亘ル前哨勤務ニ服シ、同月二十六日拂曉ヨリ聯隊ハ凹字形山攻撃ヲ開始スルヤ、敵ハ天險ニ人エヲ施シ堅固ニ防禦シ頗ル嚴ナリ。同日午後四時大隊ハ第一堡壘ニ向ツテ吶喊ス。敵ハ俄然機關砲火ノ掃射ヲ行ヒ、激戰奮進敵壘ニ肉迫シ、遂ニ占領ス。翌二十七日大隊ハ第二堡壘ニ迫リ多大ノ死傷アリタルモ屈セズ、同日午後二時第一、二中隊ハ今ヨリ決死隊トナリ第三堡壘攻撃ノ任務ヲ受、該山背面ヨリ敵ノ不意ヲ強襲ノ目的ヲ以テ、險峻タル坂路ヲ登リ一齊ニ突撃シ、劍戟相摩シ格闘シ、力戰投石ニ及ビ、彼我亂入シ、奮闘ノ際敵彈ニ矧レ名譽ノ戰死ヲ遂ケラレタリ。君生前ノ功ニ依リ同日任歩兵軍曹。死体ハ盆溝ニ埋葬シ、三十八年一月採掘シ、火葬ノ上殘灰ト共ニ揚家

屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。行年二十五歳。

岐阜縣武儀郡下牧村字殿生 近藤きん

法名 釋誠乘 第九師團騎兵第九聯隊第三中隊 故 陸軍騎兵上等兵 近藤源十郎

君ハ、明治二十七年十二月一日徵兵トシテ第三師團騎兵第三大隊第二中隊ニ入隊、二十九年三月十二日騎兵一等卒申付ラル、三月二十日臺灣守備トシテ屯營出發、四月一日宇品港出帆、同月五日臺灣嶋基隆港ニ上陸、同月二十日臺灣府ニ着、七月三日臺灣戰鬪ニ參與、十二月十日大坪頂附近土匪討伐ノ爲メ討伐隊ニ附隨、傳騎トシテ臺中出發、彰化北斗ニ宿泊シ、同月十二日鳳林着、三十年一月十六日迄大坪頂附近土匪討伐ニ參加、

47 同月十七日雲林出發、林地浦南牧ニ宿泊シ、同月十九日臺中ニ帰着、十月十三日葛塗港出帆、同月十八日神戸港ニ上陸、十一月三十日滿期除隊、三十七年五月十五日充員召集ニ應ジ、第九師團騎兵第九聯隊第三中隊ニ編入、六月二十八日野戰隊トシテ屯營出發、同月二十九日廣島着、八月十五日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月二十一日清國盛京省背泥窪ニ上陸、同月二十二日揚家屯着、第九師團司令部附傳騎トシテ、爾來旅順要塞本防禦攻圍ニ從事シ、砲烟彈雨ノ間ニ驅逐シ屢々危境ヲ凌ギ嚴暑⁶³ヲ冒シ或ハ露營シ、實ニ攻圍五ヶ月ノ困難ヲ堪ヘ、三十八年一月旅順開城後、同月二十六日第三軍ハ北進ノ命下リ同日ヨリ乘馬行軍ニテ、寒風凜然⁶⁴飛雪烈シク道路困難ヲ堪エ、二月二日遼陽着、其後金山屯附近警戒勤務ニ服シ、同月二十八日ヨリ軍ハ奉天攻撃ノ爲メ行動ヲ開始シ、同日守備地出發、三月一日四方臺攻撃ニ參加シ、同月二日影驛店攻撃ニ參加シ、同月四日五日揚子屯攻撃ニ參加シ、同月六日大石橋附近ノ戰鬪ニ參加シ、以上奉天

拂曉…あけがた
近寒…厳しい寒さ
凜然…心のひきしまるさま

附近ノ大會戰ニハ傳令トナリ或ハ斥候トナリ、連日間櫛風沐雨^{しつぷくう}禱寒⁶⁵ニ暴露シ、百難ヲ冒シ万死ヲ顧ミズ、専ラ馬力ヲ利用シテ搜索警戒ノ任ニ當リ、同月七日造化屯攻撃ニ參加シ、同月八日八家子附近ノ戰鬪ニ參加シ、同月九日廓七屯攻撃ノ際、軍ハ旋廻運動ノ目的地ニ迂回シ奉天ニ里餘ノ村落ニ至レリ。敵ハ我包圍攻撃ヲ受ケ漸次退却ヲ始メタリ。該村落ハ鐵道線以西ニテ、敵ハ綏退却ノ援護トシテ敵騎數千ヲ備工我攻撃ヲ防止セリ。君ハ其夜ニ至リ逆襲ノ際敵彈ノ爲メ名譽ノ戰死ヲ遂ゲラレタリ。嗚呼君ノ如キハ二回ノ戰役ニ從軍シ、國家ノ爲メ父母妻子ヲ忘レ、一意48專心奮骨碎心克ク軍人タル本分ヲ盡シ名ヲ後世ニ殘サル。君生前ノ功績ヲ以テ戰死當日騎兵上等兵申付ラル。死骸ハ火葬ト成シ、第九師團忠魂碑設立地奉天府ニ合葬ス。行年三十二歳。

岐阜縣武儀郡下牧村字御手洗 佐藤源太郎

法名 乾光道喜居士 第九師團後備步兵第十九聯隊第六中隊 故 陸軍歩兵一等卒 佐藤喜代三郎

君ハ、明治三十年十二月一日徵兵トシテ歩兵第四中隊ニ入隊、三十一年五月二十八日第八中隊ニ轉隊、三十二年十一月三十日歩兵一等卒申付ラレ、同日帰休除隊、三十七年七月十四日充員召集ニ應ジ、歩兵第十九聯隊補充大隊ニ着、同日後備第九旅團歩兵第十九聯隊第六中隊ニ編入、八月三日野戰隊トシテ屯營出發、同月九日廣嶋着、同月十四日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月十九日清國盛京省安東縣ニ上陸、同月二十二日同地出發、同月二十七日

49城廠着、同地守備、同月三十一日同地出發、梅澤旅團増援トシテ本澄湖ヲ經テ平台子ニ至リ、辺牛堡子附近ノ對峙第一軍ノ右側背警戒ニ任ゼラル、九月十八日大嶺附近ノ敵ヲ擊攘スル爲メ小甸子ニ向ヒ前進、同月二十日過嶺從附近ノ戰鬪、十月八日ヨリ同月十日ニ至ル間城廠附近ニ於テ戰鬪、同月十二日南下ノ敵ヲ擊攘スル目的ヲ以テ城廠出發シ、連軸嶺ヲ經テ三咀子ニ至リ、更ニ小市ヲ經テ張家堡子ニ至リ、高力營子及太子河兩岸ノ地敵ナキヲ以テ、城廠二十月十九日復帰ス、十一月十四日後備第一師團へ編入、韓國駐屯軍ニ屬シ、同月二十四日ヨリ三十日ニ至ル灣流河及馬家城子附近ニ戰鬪、其後脚氣病ニ罹リ、十二月十日清國塞⁶⁷馬集野戰病院ニ入院、三十八年三月五日遂ニ病

死セリ。死骸ハ火葬トシ、同病院墓地ニ埋葬ス。行年二十九歳。

岐阜縣武儀郡中有知村字松森 荻 とめ 長男

法名 釋剛倫 第九師團歩兵第十九聯隊第七中隊

故 陸軍歩兵一等卒 荻五平

君ハ、明治三十七年九月七日補充召集トシテ歩兵第十九聯隊補充大隊第四中隊ニ

入隊、十一月十九日野戰隊第七回補充員トシテ屯營出發、同日大坂着、同月二十

一日大坂築港出帆、同月二十六日清國盛京省青泥窪ニ上陸、同日長嶺子ニ鐵道輸送、同日野戰歩兵第十九聯隊第七

中隊ニ編入、爾來旅順要塞ニ龍山本廓斜堤壕守備ニ服シ、或ハ坑道作業ニ従事シ、十二月二十八日二龍山砲臺占領

戰ノ際、君ハ決死隊トナリ該

50砲臺午前九時ヲ期シ大爆破ヲ行ヒ、其爆聲ヲ突撃號音ノ合圖ト成シ破壊孔口ヨリ咽喊シタリ。敵ハ周章狼狽シ暫時

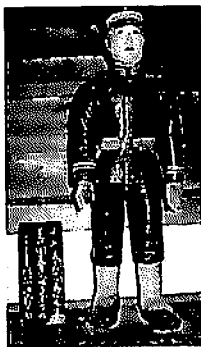
機關砲火ヲ以テ防戦セシモ、遂ニ退却シ、君ハ奮進本廓内咽喉部ニ突入際、一丸飛来リ氏ノ頭部ヲ貫通シ遂ニ名替

ノ戦死ヲ遂ゲラレタリ。死骸ハ火葬ト成シ、揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ、行年二十二歳。

岐阜縣武儀郡中有知村字松森 小瀬木貝助 弟

法名 義芳軒中巖俊道居士 第九師團歩兵第十九聯隊第十一中隊

故 陸軍歩兵一等卒勲八等功七級 小瀬木卯之助



65 節風沐雨…風にくしけずり、雨に湯あみする。外に在って艱難を嘗める嘘
66 袂寒…甚だ寒いこと
67 賽のあやまりか。

君ハ、明治三十七年五月十五日充員召集ニ應ジ、歩兵第十九聯隊第十一中隊ニ編入、六月二十八日野戰隊トシテ屯營出發、同月二十九日廣嶋着、七月十五日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月二十日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同月二十一日ヨリ金州李家屯ヲ經テ、同月二十三日盤道ニ着、同日ヨリ岔溝附近ニ於テ前哨勤務ニ服シ、同月二十六、七、八日按子嶺圍屏溝附近ノ戰鬪ニ參加、同月三十日干大山攻撃ニ參加シ、八月十日ヨリ東北

51溝附近長周菴東方高地ニ於テ前哨勤務ニ從事シ、爾來旅順要塞本防禦線本攻圍ニ從事シ、八月十九日ヨリ第三軍ハ旅順要塞第一回總攻撃ヲ開始スルヤ、第九師團ハ東西盤龍山鉢卷山角面堡ノ線攻撃部署ヲ定メ、連日續行スト雖モ、容易ニ占領スルヲ得ズ、各方面トモ益々悲境ニ陥入り、君ガ部隊ハ同日西八里庄ニ前進シ、師團豫備トシテ警戒中、敵ハ各砲臺ヨリ巨彈亂發シ、位置頗ル危險、死傷者續出シ、同日午後二時前進ノ命下リ奮進中敵彈ニ中ニ、八月二十一日名譽ノ戰死ヲ遂ゲラレタリ。死躰ハ盤龍山ニ埋葬シ、三十八年一月再ビ火葬トシ、第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。行年二十六歳。

岐阜縣武儀郡上牧村大字上野 石原徳三郎 戸主

神號^{しんごう}

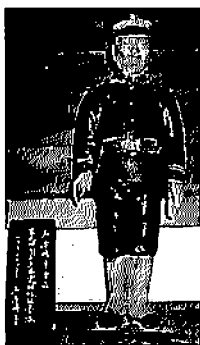
第九師團歩兵第十九聯隊第十一中隊

故 陸軍歩兵一等卒 石原徳平

君ハ、明治三十七年五月十五日充員召集ニ應ジ、歩兵第十九聯隊第十一隊ニ編入、六月二十七日野戰隊トシテ屯營出發、同月二十八日廣嶋着、七月十五日征露ノ爲

メ宇品港出帆、同月十九日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同月二十三日金州ヲ經テ盤道ニ着シ、同日岔溝附近警戒勤務ニ服ス、同月二十六日ヨリ聯隊ハ按子嶺凹字形山攻撃運動ヲ起スヤ、同日拂曉ヨリ該山攻撃ニ從事シ、翌二十七日及二十八日圍屏溝附

52近ノ戰鬪ニ參加シ、同月三十日干大山攻撃ニ參加シ、八月十日ヨリ東北溝附近長周菴東方高地ニ於テ前哨勤務ニ従



事シ、爾来旅團豫備隊トシテ草家屯ニ幕營シ、旅團要塞本防禦線攻圍ニ従事シ、八月十九日ヨリ攻圍軍ハ旅團要塞第一回総攻撃ノ爲メ運動ヲ起シ、八月二十一日盤龍山東砲臺攻撃ニ従事シ、師團左翼縱隊ナル第六旅團ハ東西盤龍山攻撃目標トシ連日猛撃奮闘スト雖モ、其功頭ハレズ、益々悲境ニ陥リ、増援隊モ豫備隊モ皆無ト成リ、死傷續出、鮮血淋漓、遂ニ全滅ニ帰シ、大隊ハ同二十一日増援隊トシテ該山ニ攀登^{はんと}シ占領工事ヲ施シ同地守備ニ任ズルヤ、各方面ヨリ砲彈集注シ、同月二十三日夜一天墨ノ如ク俄ニ曇リ、折柄雷雨篠ノ如ク、困難一層、敵ハ此機ニ乘ジ逆襲シ未リ。暗夜白刃格闘シ我兵防戦ス。君ハ此夜敵丸ノ爲メ数箇ノ負傷シ、同月二十四日第二野戦病院ニ入院、九月五日内地後送ノ爲メ青泥窪出帆、同月九日宇品港上陸、同月十日金澤豫備病院ニ轉送、十一月八日遂ニ傷死セリ。死骸ハ金澤病院陸軍墓地ニ埋葬ス。行年二十五歳。

53

岐阜縣武儀郡上牧村大字上野 林鐵治郎 二男

神號仁劍 第九師團歩兵第十九聯隊第十中隊

故 陸軍歩兵上等兵勳八等功七級 林倉治郎

君ハ、明治三十六年十二月一日徵兵トシテ歩兵第十九聯隊第十中隊ニ入隊、三十七年五月九日動員下令、六月二十七日野戦隊トシテ屯營出發、同月二十八日廣嶋着、七月十五日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月二十日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同月二十三日金州李家屯ヲ經テ盤道着、同日ヨリ岔溝ニ於テ三晝夜ニ亘ル前哨勤務ニ服シ、同月二十六日七八日按子嶺凹字形山圍屏溝附近ニ於テ戰闘ニ參加シ、同月三十日千大山



68 69

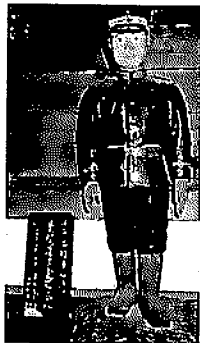
神號…本来は、神に対する称号(皇大神・明神・天神など)のこと「戦歴」は空白。「肖像記録」には「石原徳平」と記載されている
 攀登…登攀に同じか? よじのぼること

54 攻撃ニ参加、八月十日ヨリ東北海附近長周菴東方高地ニ於テ前哨及ビ作業ニ従事シ、爾来旅順要塞本防禦線攻圍ニ従事シ、八月十九日ヨリ第三軍ハ旅順要塞第一回總攻撃ヲ開始スルヤ、東西盤龍山奮砲臺攻撃ニ参加シ、九月五日歩兵一等卒申付、同月十九日二十日龍眼北方角面堡攻撃ニ参加シ、其後水源地及ビ二龍山鐵道橋附近警戒勤務ニ服シ、十月九日二龍山脚散兵壕攻撃ニ参加シ、同月十六日二龍山中腹散兵壕攻撃ニ参加シ、同月二十六日二龍山斜堤散兵壕攻撃ニ参加、同月三十日第二回旅順總攻撃ニ参加シ、十一月二十六日第三回旅順總攻撃ノ際敵彈ニ中リ名譽ノ戦死ヲ遂ゲラレタリ。君生前ノ功ヲ以テ同日上等兵申付。死骸ハ揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。

岐阜縣武儀郡下牧村字長瀬 吉田孫四郎 長男

法名 忠肝勇心居士 第九師團後備歩兵第十九聯隊第八中隊

故 陸軍歩兵一等卒 吉田萬太郎



君ハ、明治三十七年五月十五日充員召集ニ應ジ、歩兵第十九聯隊補充大隊第四中隊ニ編入、八月二日後備歩兵第十九聯隊第八中隊ニ轉入、同日野戰隊トシテ屯營出發、同月三日廣嶋着、同月十四日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月十九日清國盛京省安東縣ニ上陸、同月二十二日同地出發、同月二十七日城廠着、同地守備、同月三十一日同地出發、梅澤旅團ノ増援トシテ、本汲湖ヲ經テ平蓋子ニ至リ、辺牛堡子附近ノ敵ニ

55 對シ第一軍右側背ノ警戒ニ任セシメラレ、九月十八日大嶺附近ノ敵ヲ撃壊スル爲メ小甸子ニ向ヒ前進シ、同月二十日過嶺徒附近ニ於テ戦鬪ニ参加、十月八日ヨリ同月十日ニ至ル間城廠附近ニ於テ戦鬪ニ参加シ、同月十二日南下ノ敵ヲ撃壊スル目的ヲ以テ城廠出發、連軸嶺ヲ經テ三咀子ニ至リ、更ニ小市ヲ經テ張家堡子ニ至リ、高力營子及ビ太子河兩岸ノ地敵ナキヲ以テ、十月十九日城廠ニ復帰ス。十一月十四日後備第一師團へ編入、韓國駐劄軍ノ隸下ニ屬シ、同月二十四日ヨリ三十日ニ至ル清流河及馬家城子附近ニ於テ戦鬪ニ参加、三十八年一月五日肺炎兼脚氣病ニ

罹り塞馬集兵站病院ニ入院、一月十二日遂ニ葉石効ナク病死セリ。死体ハ該病院墓地ニ埋葬ス。行年二十八歳。

岐阜縣武儀郡下牧村大字藤生 後藤佐助 三男

法名 雄相義俊居士 第九師團歩兵第十九聯隊第七中隊

故 陸軍歩兵一等卒勳八等功七級 後藤代治郎

君ハ、明治三十七年九月七日補充召集トシテ歩兵第十九聯隊補充大隊第三中隊ニ入隊、十一月十九日第七回戰役從軍ノ爲メ補充員トシテ屯營出發、同月二十日大

坂着、同月二十一日大坂築港出帆、同月二十六日清國盛京省背泥窟上陸、同日長嶺子ニ鐵道輸送、同日野戰歩兵第

十九聯隊第七中隊ニ編入、爾来二龍山斜堤壕守備ニ服シ坑道作業ニ從事ス、十二月二十八日二龍山砲臺占領戰ノ際

ハ決死隊ニ

56加リ、奮然本廓内重砲線ニ突入シ、激戰ノ際敵彈ノ爲メ名譽ノ戰死ヲ遂ゲラレタリ。死骸ハ火葬トシ、揚家屯第九

師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。

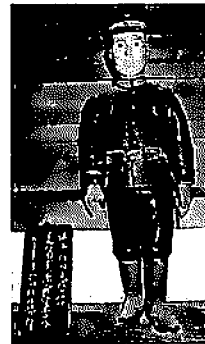
岐阜縣武儀郡上牧村大字上野 井上松五郎 長男

法名 重岳義萬居士 第九師團歩兵第十九聯隊補充大隊附 故 陸軍看護手 井上重萬

君ハ、明治三十七年五月十五日充員召集ニ應ジ、歩兵第十九聯隊補充大隊第二中隊ニ編入、十二月二日看護學修行

者ニ擬定セラレ、爾来金澤豫備病院ニ派遣セラレ、三十八年二月五日卒業帰隊、同日歩兵一等卒申付、同日陸軍看

護手申付ラル。五月七日野戰後備聯隊看護手補充員トシテ屯營出發、同月八日廣嶋着、同月十日字品港出帆、同月



十四日清國盛京省大連二

57上陸、同月十八日大連出發、同月二十日鐵嶺着、後備歩兵第一聯隊醫務室附トナリ、其後熱心ニ勤務中、感冒性腸加答兒ニ罹リ、遂ニ開原兵站病院ニ入院、九月二十五日病死セリ。死骸ハ火葬トナシ、同病院墓地ニ埋葬ス。行年二十四歳。

岐阜縣武儀郡關町 安田與平治 二男

法名 清淨惠觀居士 第九師團歩兵第十九聯隊第七中隊

故 陸軍歩兵一等卒 安田竹松

君ハ、明治三十三年十二月一日徵兵トシテ歩兵第十九聯隊第七中隊ニ入隊、三十

四年十二月一日歩兵一等卒申付ラレ、爾来平素品行方正、勤務勉勵、學術技藝ニ熟達シ、三十五年十一月三十日帰休除隊、同日善行證書ヲ附與セラレ、三十七年五月十五日充員召集ニ應ジ、歩兵第十九聯隊第七中隊ニ編入、六月二十八日野戰隊トシテ屯營出發、同月二十九日廣嶋着、七月十五日征露ノ爲メ字品

58港出帆、同月十九日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同月二十日金州ニ着、同月二十三日ヨリ岔溝附近ニ於テ三晝夜ニ亘ル前哨勤務ニ服シ、七月二十六日按子嶺凹字形山攻撃ノ際ハ圍屏溝附近ノ戰鬪ニ参加シ、此日日没ニ至ルモ只凹字形山第一堡壘ニ第一大隊ハ肉迫シ、同日聯隊長負傷シ、敵ノ堅固ニ據守スル要塞ナレバ、一壘占領シタルニ止マレリ。翌二十七日第二第三堡壘攻撃ニ参加シ、同夜第一線守備ニ服シ、同月二十八日凹字形山占領後、敵ヲ追窮シテ分水嶺ニ至リ前哨勤務ニ服シ、七月三十日干大山攻撃ニ参加シ、八月十日ヨリ東北海北方高地ニ於テ前哨勤務ニ従事シ、八月十四日草家屯ニ於テ旅團豫備隊トシテ作業伐料運搬ニ従事シ、爾来旅順要塞本防禦線攻圍ニ従事シ、八月十九日ヨリ第三軍ハ旅順要塞第一回總攻撃ヲ開始スルヤ、第十八旅團ハ龍眼北方角面堡即チクロバトキン砲壘ニ肉薄セシモ、何ニシ負フ堅壘防備嚴重ナル事想像ニ絶シ、終ニ一夜ニシテ二千餘名ノ死傷者ヲ出シテ尚成果ヲ見ズ、



同二十一日午前四時ヲ期シ行ヒタル總攻撃ニ於テ功ナク、越エテ二十三日第五第六中隊ハ薄暮盤龍山ニ突撃シテ之ヲ奪取シ、次テ第七中隊ハ西砲臺守備ニ服シ、茲ニ全然失敗ニ了ラントスル攻圍軍ノ第一回總攻撃ハ、第九師團ノ偉功ニヨリ其面目ヲ維持スルヲ得タリ。九月十九日二十日龍眼北方角面堡攻撃ノ際ハ第一線突撃部隊トナリ、該砲臺ニ猛進スルヤ、敵ハ塹壕坑築シ鐵條網機關砲ヲ備エ防禦嚴重ナリ。激戰數時翌二十日午前五時一

59 聲ニ咽喊シ、遂ニ占領セリ。九月二十一日ヨリ水師營附近ニ於テ警戒勤務及ビ夜間戰闘作業ニ従事シ、或ハ水源地附近前哨勤務ニ服シ、十月二日ヨリ二龍山對壕作業ニ従事シ、十月九日二龍山脚散兵壕攻撃ニ参加シ、爾未連日連夜坑道作業ニ従事セシガ、其後病氣ニ罹リ、十月十四日第三野戰病院ニ入院、十月二十日遂ニ病死セリ。死躰ハ長周庵ノ墓地ニ埋葬シ、三十八年一月再ビ火葬トシ、揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬ス。行年二十六歳。

岐阜縣武儀郡安曾野村字前野 須田末吉

法名 順邦義徳居士 第九師團工兵第九大隊第二中隊

故 陸軍工兵上等兵勳八等功七級 須田金五郎

君ハ、明治三十四年十二月一日徵兵トシテ工兵第九大隊第二中隊ニ入隊、三十五年十二月一日工兵一等卒申付ラレ、三十七年五月九日勳員下令、六月二十三日野

戰隊トシテ屯營出發、同月二十四日廣嶋着、七月十四日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月十八日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同月二十日金州ニ集合、同月二十六七八日凹字形山攻撃ニ参加シ、七月三十日干大山攻撃ニ参加シ、爾未

60 旅順本防禦線攻圍ニ従事シ、八月十九日ヨリ旅順要塞第一回總攻撃ヲ開始シ、同日ヨリ盤龍山砲臺占領ノ目的ヲ以テ壘下ニ肉迫シ、爆薬ヲ以テ鐵條網破壊ヲ司リ八月二十二日遂ニ敵彈ノ爲メ名譽ノ戰死ヲ遂ゲラレタリ。死體該山ニ埋葬セシガ、後三十八年一月再火葬トシ、揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。



岐阜縣武儀郡安曾野村字安毛 古田房吉

法名 義道堅忠居士 第九師團歩兵第十九聯隊第十一中隊 故 陸軍歩兵上等兵勳八等功七級 古田夏治郎

君ハ、明治三十三年十二月一日徵兵トシテ歩兵第十九聯隊第十一中隊ニ入隊、三十四年十二月一日歩兵一等卒申付、三十六年十一月三十日満期除隊、三十七年五月十五日充員召集ニ應ジ、歩兵第十九聯隊第十一中隊ニ編入、六月二十七日野戰隊トシテ屯營出發、同月二十九日廣嶋着、七月十五日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月十九日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同月二十日金州着、同月二十三日ヨリ岔溝

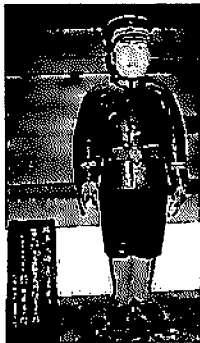
61附近ニ於テ前哨勤務ニ服シ、同月二十六七八日凹字形山攻撃ニ參加シ、同月三十日干大山攻撃ニ參加シ、同月十日ヨリ東北溝北方高地ニ於テ前哨勤務ニ服シ、爾來旅順本防禦線攻圍ニ從事シ、同月十九日ヨリ第壹回總攻撃ニ従事スルヤ、八月二十二日大隊ハ盤龍山攻撃ニ移リ、砲煙彈雨ノ埋ニ奮進激闘ノ際、敵彈ニ中リ名譽ノ戦死ヲ遂ゲラレタリ。死体ハ該地ニ埋葬セシガ、其後三十八年一月再ビ火葬トシ、揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。

岐阜縣武儀郡南武藝村字高野⁷¹

法名 大峰義勇居士 第九師團歩兵第十九聯隊第十二中隊

故 陸軍歩兵一等卒 井藤浦三郎

君ハ、明治三十七年九月七日補充召集トシテ歩兵第十九聯隊補充大隊第二中隊ニ入隊、十月二十日第六回野戰隊補充員トシテ屯營出發、同日大坂着同月二十一日大坂築港出帆、同月二十五日清國盛京省青泥窪ニ上陸、同月二十六日二龍山着、野戰歩兵第十九聯隊第十二中隊ニ編入、同日ヨリ二龍山着、頂点攻路作業及斜堤壕附近ニ於テ第一線警戒勤務ニ服シ、十二月二十八日二



62龍山砲臺占領戰ノ際ハ、決死隊ヲ志願シ第一突撃部隊ニ加リ、奮然壘上ニ突進ノ際敵彈ニ中リ名譽ノ戦死ヲ遂ゲラレタリ。死体ハ火葬トシ、揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。行年二十三歳。

岐阜縣武儀郡南武藝村字高野 西田喜十郎

第九師團歩兵第十九聯隊第一中隊 故 陸軍歩兵一等卒 西田鶴治郎

君ハ、明治三十七年九月七日補充召集トシテ歩兵第十九聯隊補充大隊第二中隊ニ入隊、三十八年二月十二日野戰隊第十四回補充員トシテ屯營出發、同月十八日清國盛京省大連ニ上陸、同月二十七日金山屯ニ着、野戰歩兵第十九聯隊第一中隊ニ編入、同月二十八日ヨリ奉天附近ノ攻撃ヲ開始セラレ、四方葦影驛店ノ攻撃ニ參加シ、三月四日五日揚士屯攻撃ニ參加シ、同月六日大

63 石橋附近ノ戰鬪ニ參加シ、同月七日造化屯攻撃ノ際敵彈ニ中リ名譽ノ戰死ヲ遂ゲラレタリ。

岐阜縣武儀郡南武藝村字高野 杉下勇八

法名 祐岳義賢居士 第九師團歩兵第十九聯隊第九中隊 故 陸軍歩兵一等卒 杉下祐吉

君ハ、明治三十五年十二月一日徵兵トシテ歩兵第十九聯隊第九中隊ニ入隊、三十六年十二月一日歩兵一等卒申付、三十七日五月九日動員下令、六月二十七日野戰隊トシテ屯營出發、同月二十八日廣嶋着、同日ヨリ滞在シ七月十五日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月二十日金州着、同月二十三日ヨリ岔溝ニ於テ前哨勤務ニ服シ、同月二十六七八日圍屏溝附近ニ於テ戰鬪ニ從事シ、同月三十日

64 干大山攻撃ニ參加シ、同月十四日ヨリ草家屯ニ於テ旅團豫備隊トナリ、作業材料運搬ニ從事ス。爾來旅團要塞本防禦線ノ攻圍ニ從事シ、同月十九日ヨリ旅團要塞第一回總攻撃ヲ開始スルヤ、東北溝ニ前進シ、同月二十一日ヨリ盤龍山東舊砲臺守備嚴重ナル該山ヲ攻撃シ、同月二十六日迄守備ニ服ス。九月十九日二十日龍眼北方角面堡攻撃ニ參

加シ、同月二十三日二龍山對壕作業中敵彈ニ中リ名替ノ戦死ヲ遂ゲラレタリ。死体ハ山麓ニ埋葬セシガ、三十八年一月再ビ火葬トシ、揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。行年二十三歳。

岐阜縣武儀郡大矢田村字西河 遺族 辻吉右衛門

法名 堰應玄武居士 第九師團歩兵第十九聯隊第一中隊 故 陸軍歩兵一等卒 辻武平治

君ハ、明治三十四年十二月一日徵兵トシテ歩兵第十九聯隊第一中隊ニ入隊、三十五年十二月一日歩兵一等卒申付、三十七年五月九日勳員下令、六月二十七日野戰隊トシテ屯營出發、同月二十八日廣嶋着、七月十五日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月十九日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同月二十三日ヨリ盤道北方高地ニ於テ前哨勤務ニ服シ、同月二十六七八日凹字形山攻撃ニ從事シ、同月三十日干大山攻撃ニ参加シ、八月

65 十四日ヨリ東北溝北方高地ニ於テ前哨勤務ニ服シ、爾來旅順要塞本防禦線攻圍ニ從事シ、同月十九日ヨリ旅順要塞第一回總攻撃ヲ開始スルヤ、敵ハ各要塞ニ嚴重ナル防備ヲ施シ、聯隊ハ東北溝ニ前進シ、同月二十七日ヨリ九月六日ニ至ル盤龍山東壘砲臺守備ニ服スヤ、該山ハ一面岩石露出シ、加之突擊ノ際ニ於ケル伏屍累々腐臭ヲ放チ、各方面ヨリ砲彈頻發シ、折角一夜ノ難工事モ烏有ニ帰スル等ナリキ。八月三十一日君ハ分隊長坪内伍長ニ從ヒ下士哨トナリ、第一線警戒中、同日午後四時俄然敵彈ノ爲メ掩蓋下ニ埋没シ、名替ノ戦死ヲ遂ゲラレタリ。死体ハ該山ニアリシガ、三十八年一月火葬トシ、揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。

岐阜縣武儀郡洲原村字下河和 村瀬茂兵衛

法名 忠獄義勇居士 第九師團歩兵第十九聯隊第三中隊 故 陸軍歩兵伍長勳八等功七級 村瀬紋治郎

君ハ、明治三十三年十二月一日徵兵トシテ歩兵第十九聯隊第三中隊ニ入隊、三十四年十二月一日歩兵一等卒申付、三十五年十二月一日歩兵上等兵申付、三十六年十一月三十日満期除隊、三十七年五月十五日充員召集ニ應ジ、歩兵

第十九聯隊第三中隊ニ編入、六月二十七日野戰隊トシテ屯營出發、同月二十八日廣島着、七月十五日征露ノ爲メ宇品港出帆、同月十九日清國盛京省柳樹屯ニ

66 上陸、同月二十日金洲着、同月二十三日ヨリ盤道北方高地ニ於テ三晝夜ニ亘ル前哨勤務ニ服シ、同月二十六七八日凹字形山攻撃ニ参加シ、七月三十日干大山攻撃ニ参加シ、八月十四日ヨリ東北澗北方高地ニ於テ前哨勤務ニ服シ、爾來旅順要塞本防禦線攻圍ニ從事シ、同月十九日ヨリ旅順要塞第一回總攻撃ヲ開始スルヤ、聯隊ハ東北澗ニ前進シ師團豫備隊ニ服シ、同月二十七日ヨリ九月六日ニ至ル盤龍山東舊砲臺守備ニ服シ、同月十五日任歩兵伍長、同月十九日龍眼北方角面堡攻撃ノ際名譽ノ戰死ヲ遂ケラレタリ。死骸ハ該地附近ニ埋葬セシガ、三十九年一月火葬トシ、揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。行年二十五歳。

岐阜縣武儀郡中有知町村字生櫛 須田慶作

法名大義軒越峰俊超居士 第九師團歩兵第十九聯隊第九中隊 故 陸軍歩兵上等兵勳八等功七級 須田越二君ハ、明治三十一年十二月一日徵兵トシテ歩兵第十九聯隊第九中隊ニ入隊、六月二十七日野戰隊トシテ屯營出發、同月二十八日廣島着、七月十五日宇品港出帆、同月十九日清國盛京省柳樹屯ニ上陸、同月二十日金州ヲ經テ盤道着、同月二十三日ヨリ盤道北方高地ニ於テ三晝夜ニ亘ル前哨勤務ニ服シ、同月二十六七八日凹字形山攻撃ニ参加シ、同月三十日干大山攻撃ニ参加シ、八月十二日

67 ヨリ鳳凰山ニ於テ前哨勤務ニ服シ、爾來旅順要塞本防禦線攻圍ニ從事シ、同月十九日ヨリ旅順要塞第一回總攻撃トナルヤ、聯隊ハ東北澗ニ前進シ左翼盤龍山攻撃ニ向フヤ、中隊ハ八月二十二日東盤龍山ノ敵ヲ擊攘ノ爲メ前進中、敵彈ニ中リ名譽ノ戰死ヲ遂ケラレタリ。死体ハ該山ニ埋葬シ、三十八年一月再ビ火葬トシ、揚家屯第九師團忠魂碑ノ元ニ合葬セリ。

参考：「征露戰 病死者 肖像人名記」

緒言

抑國家ノ隆替ハ國民元氣ノ消長ニアリ。國民元氣ノ消長ハ士氣ノ振否ニアリ。夫レ我大日本帝國ハ古來武ヲ以建國ノ要素トシ、尚武義勇ノ精神ニ富ム。是國民ノ天性タリ。其レ平素事ナキノ日ニ當リ克ク忠孝ヲ全フシ、一朝事アルニ際シテハ勇敢邁進斃レテ后止ム。是拳國皆兵

皇威ヲ四海ニ發揚スル所以ナリ。回顧スレハ我郡出身軍人トシテ明治三十七八年征露ノ役ニ從軍シ不幸ニシテ砲彈ニ斃レ、或ハ病魔ニ襲ハレ遂ニ護國ノ鬼トナリシモノ殆ト參百數十名ノ多キニ及フ。嗚呼郡内ニ棲息スルモノ誰カ其英名ヲ歎、其威烈ヲ慕ハサルモノアランヤ。然リ而シテ今ヤ日露戰鬪モ平和克復ノ期ニ至レリ。仍テ本町小倉山西之坊善光寺境内ニ忠魂紀念堂ヲ建立シ忠勇武烈ナル戰病名士ノ肖像ヲ彫刻シ祠堂ニ安置シ奉リ朝夕香華ヲ獻シ回向ヲナシ、歳々春秋二回大供養ヲ修行シ、一ハ烈士ノ靈魂を慰シ、一ハ后民ノ子弟ヲシテ倍尚武義勇ノ志操ヲ發起セシメ、護國ノ大任ヲ盡サン事二期ス。仰キ願クハ、大方ノ諸氏奮テ翼賛アラン事ヲ伏テ乞フ。

明治三十八年十二月

西之坊善光寺

發起人

今井兵四郎

西部金兵衛

堀 源藏

村井與助

梅村清兵衛

正村平兵衛

松久才治郎

赤堀善兵衛

鈴木暎三

鈴木市郎兵衛
外善光寺世階掛一同

住 所	所属又は備考	遺 族
和歌山県和歌山市 (肖)に「申込人」上有知町田中治助	野砲砲兵第九連隊長	
武儀郡上有知町	歩兵第十九連隊第四中隊附	遠藤興七郎 次男
武儀郡上有知町	歩兵第十九連隊第五中隊	西田森之市 養長男
武儀郡上有知町	歩兵第十九連隊第三中隊	河合岩吉 長男
武儀郡上有知町字下渡り	歩兵第十九連隊第三中隊	笠井政右衛門 兄
武儀郡上有知町字上條	歩兵第十九連隊第八中隊附	山口慶治郎 弟
武儀郡上有知町字口野々	歩兵第十九連隊第一中隊	早戸志も 戸主
武儀郡上有知町	野砲砲兵第九連隊第三中隊	渡邊薫太郎 弟
武儀郡上有知町字口野々	歩兵第十九連隊第十中隊	總口亀吉 三男
武儀郡上有知町	予備馬廠附	西部金兵衛 次男
武儀郡上有知町字樋ヶ洞	歩兵第十九連隊第 中隊	早戸駒吉 長男
武儀郡上有知町	歩兵第十九連隊第四中隊	岩本勇治郎 弟
武儀郡上有知町	歩兵第三十六連隊第七中隊	鈴木久七 長男
武儀郡上有知町	歩兵第十九連隊第二中隊	宮嶋慶治郎 養長男
武儀郡上有知町字上條	歩兵第十九連隊第七中隊	山口辨治郎 四男
武儀郡上有知町	第十七補助輸卒隊	岩本角治郎 長男
武儀郡上有知町	(近衛師団)歩兵第三連隊第三中隊附	古川鐵治郎 長男
武儀郡上有知町二・十九十六番	(後備第九旅団)歩兵第十九連隊第六中隊	岩見きよの
加茂郡富岡村	歩兵第十九連隊第十中隊	石原伴吉 長男
武儀郡安曾野村大字曾代	歩兵第十九連隊第七中隊	西部甚吉 長男
武儀郡上有知町	後備歩兵第十九連隊第五中隊	松田たよ 戸主
武儀郡下牧村字塚生	(第十三師団)歩兵第五十二連隊第中隊	近藤竹造 長男
山懸郡梅原村二百拾三番戸(「申込人」上有知町藤井榮治郎)	歩兵第三十六連隊第十二中隊	後藤はる 養長男
武儀郡藍見村大字笠持	歩兵第十九連隊第九中隊附	東海みね 二男
武儀郡下牧村長瀬百四十六番戸	歩兵第十九連隊第二中隊附	平林徳四郎
武儀郡下牧村字塚生	騎兵第九連隊第三中隊	近藤きん
武儀郡下牧村字御手洗	後備歩兵第十九連隊第六中隊	佐藤源太郎
武儀郡中有知村字松森	歩兵第十九連隊第七中隊	萩とめ 長男
武儀郡中有知村字松森	歩兵第十九連隊第十一中隊	小瀬木貝助 弟
武儀郡上牧村大字上野	歩兵第十九連隊第十一中隊	石原徳三郎 戸主
武儀郡上牧村大字上野	歩兵第十九連隊第十中隊	林鐵治郎 二男
武儀郡下牧村字長瀬	後備歩兵第十九連隊第八中隊	吉田孫四郎 長男
武儀郡下牧村大字塚生	歩兵第十九連隊第七中隊	後藤佐助 三男
武儀郡上牧村大字上野	歩兵第十九連隊補充大隊附	井上松五郎 長男
武儀郡関町荻水町	歩兵第十九連隊第七中隊	安田興平治 二男
武儀郡安曾野村字前野	工兵第九大隊第二中隊	須田末吉
武儀郡安曾野村字安毛	歩兵第十九連隊第十一中隊	古田房吉
武儀郡南武藝村字高野	歩兵第十九連隊第十二中隊	
武儀郡南武藝村字高野	歩兵第十九連隊第 中隊	西田喜十郎
武儀郡南武藝村字高野	歩兵第十九連隊第九中隊	杉下勇八
武儀郡大矢田村字西洞	歩兵第十九連隊第一中隊	辻吉右衛門
武儀郡洲原村字下河和	歩兵第十九連隊第三中隊	村瀬茂兵衛
武儀郡中有知村字生苅	歩兵第十九連隊第九中隊	須田慶作

ID	名前	肖像記録記載	人名記載	人形	靖国忠魂史記載
1	宇治田虎之助	*			
2	遠藤茂一郎	*	*	*	有
3	西田時習	*	*	*	有(死亡二三日)
4	河合米三郎	*	*	*	有(死亡八日)
5	笠井儀三郎	*	*		
6	山口磯治郎	*(磯)	*(磯)	*	有(「磯」、死亡十九日)
7	早戸嘉右衛門	*	*	*	有
8	渡邊倉次郎	*	*	*	有
9	樋口義吉	*	*	*	有
10	西部賢造	*	*	*	有
11	早戸米三郎	*	*	*	有
12	岩本定治郎	*	*	*(現2体)	
13	鈴木枿太郎	*	*	*	有(「升」)
14	宮嶋乙吉	*	*		
15	山口浅松	*	*		
16	岩本増吉	*	*	*	
17	古川健三	*	*		
18	岩見庄之助	*	*	*	
19	石原精六	*		*	
20	西部金治郎	*	*		有(死亡十七日)
21	松田藤十郎	*	*		
22	近藤清七郎	*			
23	土岐宜徳	*	*	*	有
24	東海祖孝	*	*	*	
25	平林植三郎	*	*	*	有
26	近藤源十郎	*	*		
27	佐藤喜代三郎	*	*		有
28	萩五平	*	*	*	有(「伍」)
29	小瀬木卯之助	*	*	*	
30	石原徳平	*	*	*	有
31	林倉治郎	*	*	*	有
32	吉田萬太郎	*	*	*	
33	後藤代治郎	*	*	*	有
34	井上重萬	*	*		
35	安田竹松	*	*	*	有
36	須田金五郎	*	*	*	有
37	吉田夏治郎	*	*		有
38	井藤誦三郎	*	*	*	有
39	西田鶴治郎	*	*		
40	杉下祐吉	*	*		有(死亡「青泥壘兵站病」)
41	辻武平治	*	*		有(死亡九月一日)
42	村瀬紋治郎	*	*		有(死亡二十日)
43	須田越二	*	*		有

住 所	所屬又は備考	遺 族
(肖)武儀郡上牧村字上野		
(肖)武儀郡下牧村大字蔵生		
(人)前野		
(肖)板取村大字中切		
(肖)下之保村大字大門		
(肖)富野村字八神		
(肖)洞戸村字市場黒谷		
(肖)下之保村大字大門		
(肖)富野村大字小野		
(肖)武儀郡上牧村大字乙狩		
(肖)藍見村大字極楽寺		
(肖)上之保村大字舟山		
(肖)南武蔵村八幡		
(肖)上之保村大字舟山		
(肖)藍見村大字極楽寺		
(肖)下有知村		
(肖)武儀郡小金田村大字小屋谷七番戸		
(肖)武儀郡小金田村字上白金		
(肖)須原村大字上河和		
(肖)須原村大字佐ヶ坂		
(肖)富野村大字小野		
(肖)富野村大字八神		
(肖)富野村大字西神野		
(肖)富野村字小野		
(肖)富野村大字志津野		
(肖)富野村大字志津野		
(肖)下之保村大字上野		
(肖)下之保村大字天正寺		
(肖)下之保村		
(肖)上之保村大字河合		
(肖)上之保村大字武儀倉		
(肖)富之保村大字祖父川		
(肖)富之保村大字厩曾連		
(肖)神調村		
(肖)住所なし(人)上有知町		
(人)上有知町		
(肖)上之保村大字舟山		
(人)上麻生室兼		
(肖)上之保村字正伍		
(肖)下有知村		
(肖)洞戸村		
(肖)富之保村大字一切		

ID	名前	肖像記録記載	人名記記載	人形	靖国忠魂史記載
44	石原友四郎	*	*	*	
45	五十川秋五郎	*	*	*	
46	市原利右衛門	*	*	*	
47	太田治太郎	*	*	*	有
48	大坪丈太郎	*	*	*	有
49	佐藤利一	*	*	*	有
50	神山彦三郎	*		*	
51	福島留蔵	*	*	*	
52	村山嘉助	*	*	*	
53	長村才吉	*	*	*	有
54	高井平吉	*	*	*	有
55	河合芳五郎	*	*	*	有
56	西村浪治郎	*	*	*	
57	長尾松太郎	*	*	*	有
58	高橋榮助	*	*		有
59	大野孫作	*	*		有
60	亀山徳郎	*	*		
61	西村善一	*	*		有
62	長尾鎮治	*(鎮)	*(鎮)		有? 靖国「長尾鎮治」
63	那須善太郎	*	*		
64	村山圓右衛門	*	*		
65	大野金五郎	*	*		有
66	山田敏夫	*			有
67	安田源三郎	*	*		
68	石竹冬吉	*	*		
69	長瀬喜一郎	*	*		
70	西部金一郎	*	*		有
71	丹羽兼太郎	*	*		有
72	和座一作	*	*		
73	河合與一郎	*			有
74	漆畑延次	*	*		有
75	林金之助	*	*		有
76	長尾善左衛門	*	*		有
77	塚本金三郎	*	*		有
78	鈴木健次郎	*	*		
79	岩見藤三郎		*		
80	河合源太郎	*	*		
81	野中吉助		*		有
82	波多野五一郎	*(伍)	*(伍)	*(現2体)	有(「伍」)
83	桑原権五郎			*	
84	山田源太郎	*	*	*	有
85	林正次	*	*	*	有
86	土屋勝一	*	*	*	有

住 所	所 属 又 は 備 考	遺 族
(肖)上牧村大字乙狩	(肖)〔陸太郎〕に訂正線〔龍次郎〕〔人〕〔龍次郎〕	
(肖)富野村大字小野		
(肖)須原村大字上河和十七番戸		
(肖)板取村白谷区		
(肖)東武藝村		
(肖)下有知村		
(肖)東武藝村大字平		
(肖)神瀨村大字八日市		
(肖)富野村大字日立		
(肖)板取村字門出		
(肖)東武藝村大字谷口		
(肖)上之保村大字小笹		
(肖)板取村字岩本		
(肖)南武藝村八幡		
(肖)神瀨村		
(肖)板取村松谷		
(肖)板取村大字老洞		
(肖)富之保村大字岩		
(肖)富之保村大字岩		
(肖)板取村字三洞		
(肖)下之保村大字殿村		
(肖)武儀郡上牧村大字乙狩		
(肖)南武藝村大字小知野		
(肖)武儀郡下牧村大字神洞		
(肖)富之保村		
(肖)武儀郡下牧村大字蔵生		
(肖)上之保村大字河合		
(肖)板取村大字白谷 「奥四郎」に訂正線「喜七」		
(肖)富之保村大字雁曾禮		
(肖)中有知村字生師		
(肖)上之保村大字舟山		
(肖)東武藝村大字宇多院		
(肖)武儀郡下牧村大字神洞		
(肖)須原村大字下河和		
(肖)乾村大字柿野		
(肖)住所なし(人)安曾野		
(肖)武儀郡安曾野村大字安毛		
(肖)武儀郡下牧村大字長瀬		
(肖)武儀郡下牧村大字蔵生		
(肖)武儀郡下牧村大字神洞		
(肖)武儀郡下牧村大字片知		

ID	名前	肖像記録記載	人名記記載	人形	靖国忠魂史記載
87	庄司勘太郎	* (「勘太郎」に訂正線「次」)	* (「勘次郎」)	*	
88	村山治太郎	*	*	*	
89	古田権右衛門	*	*	*	
90	長屋和兵衛	*	*	*	有
91	恩田新六	*	*	*	
92	後藤善一	*	*	*	有
93	杉本豊吉	*	*	*	有
94	阿部又三郎	*	*	*	有
95	小森鍛冶郎	*	*	*	有
96	長屋石造	*	*	*	有
97	山田種治郎	*	*	*	
98	長瀬治郎兵衛	*	*	*	有
99	長屋重次郎	*	*	*	
100	藤吉宮六	*	*	*	有
101	福井實之助	*	*	*	有
102	塚本重三郎			*	
103	長屋庄助	*	*	*	
104	三島光助	*	*	*	
105	長尾権太郎			*	
106	堀江玉治	*	*	*	有
107	東山宗一郎	*	*	*	
108	長屋春太郎	*	*	*	有
109	駒田常蔵	*	*	*	有
110	大橋清八	*	*	*	有
111	田下国松	*	*	*	
112	立木今治郎	*	*	*	有
113	工藤勘五郎	*	*	*	有
114	後藤嘉七	*	*	*	
115	加納銀一郎	*	*	*	有
116	久江喜七	* (「與四郎」に訂正線)	*	*	有
117	猿渡辨治郎	*	*	*	有
118	平田政市	*	*	*	
119	河合源三郎			*	
120	藤井友蔵	*	*	*	有
121	立木繁松	*	*	*	有
122	額田莊七	*	*	*	
123	藤田虎市	*	*	*	有
124	須田徳右衛門	*	*		
125	渡辺浅太郎	*			有
126	吉田正鑑	*	*		
127	澤村恒五郎	*	*		
128	岩原寅之助	*	*		有
129	山田庄七	*			

住 所	所属又は備考	遺 族
(肖)武儀郡上牧村大字上野		
(肖)武儀郡上牧村大字御手洗		
(肖)武儀郡上牧村大字御手洗		
(肖)武儀郡上牧村大字乙狩		
(肖)洞戸村大字大野		
(肖)洞戸村大字下洞戸		
(肖)洞戸村		
(肖)洞戸村大字通元寺		
(肖)乾村大字柿野		
(肖)乾村大字		
(肖)南武藝村大字高野		
(肖)南武藝村八幡		
(肖)南武藝村廣見		
(肖)南武藝村小知野		
(肖)東武藝村大字字多院		
(肖)東武藝村大字字多院		
(肖)東武藝村字寺尾		
(肖)東武藝村大字谷口		
(肖)南武藝村大字小知野		
(肖)大矢田村		
(肖)大矢田村字半道		
(肖)中有知村大字生飼		
(肖)中有知村大字生飼		

ID	名前	肖像記録記載	人名記記載	人形	靖国忠魂史記載
130	太田鉄治郎	*	*		
131	榎梅次郎	*	*		有
132	兒山宮吉	*			
133	長村源助	*	*		有
134	船戸萬吉	*	*		
135	船戸金松	*	*		有
136	林柳助	*	*		
137	鷺見瀧治郎	*	*		
138	桑原松五郎	*	*		有
139	水井房吉	*	*		有
140	井上榮五郎	*	*		
141	早川仲助	*	*		有
142	奥田源助	*	*		
143	山田清三郎	*	*		
144	藤本勘左衛門	*	*		
145	藤井勝蔵	*	*		有
146	船戸千代吉	*	*		
147	栗原藤太郎	*	*		有
148	北瀬藤市	*	*	*	有
149	野倉濱吉	*	*		
150	且野元三郎	*	*		
151	三輪乙吉	*	*		有
152	須田芝助	*	*		有